

天草狂句

鶴田 功 編著

天草方言特有の豊富な語彙を駆使し、通俗的な駄洒落や頓知豊かなユーモア、表意を突く風刺、処世の妙理や訓戒警句など、川柳の箍を緩め、面白可笑しくことば遊びを試みました。

ああ悔し 一点差でも 負けは負け
ああ寒か 猫と一緒に 炬燵番 (丸うなつて)
ああ寒さ 力仕事が エコロジー
ああ寒さ 持つとる服は 全部着た
ああ辛勞 日暮じゃった 弛止しゆ
ああよっこい 収穫前に 堀たじつて (猪め)
ああらそう 騙され方も 知つとらす
アーンして 昔やアツアツ 今介護 (あぐつちやけ)
アーンして 取つて喰わせて ツバクラメ
愛嬌に 女男は 関係にや (女も度胸)
相済まん 意思はなくても 生かされて
相済まん 嬢が留守して 茶も出せん
相済まん 歳に免じて 座らせろ
愛想んにや 猫にや撫で声 こんにやろう
相部屋の イビキに懲りて 逃げ出さす
相部屋の 不運を笑う 高敷
逢えんなら 夜毎の夢に 出て来んね
青田から 飯になるまで 水加減
赤い糸 今じゃ額入り 黒リボン (絆)

上ったり 大型店に 客取られ
赤のれん 関所通らにや 戻られん
明るいねえ 家族の視線 孫に向き
明るいねえ これなら糸も 通しきる
明るいねえ 孫が家族の ど真ん中
秋が来る 祭り男の 血が騒ぐ
秋風と 夫婦喧嘩は 夜は風ぐ (夜鍋)
秋鯖に 一度当たつて トラウマに
秋だなア 虫の合唱コンクール
諦めた 雨音聞いて 一寝入り
諦めた 体がついて いききらん
諦めた 禁酒禁煙 税逃れ
諦めた こつから先や 銭の要る
諦めた こりやどう見ても 勝ち目なか
諦めた 初心な何処か 果行えた
諦めた 胸のところが 合わさらん
飽きられて ちゃんと引き際 知つとらす
呆れ果て 聞きしに勝る 頑固爺
悪業は 因果応報 子に報う (親の因果が子に報い)
悪性打つ アジの釣れ過ぎ 配りまえ (大漁)
朝帰り 犬に吠えられ 嬢も吠え
朝顔 清々しさの すぐしぼみ
朝仕事 出勤前に 汗流す
朝仕事 涼しかうちは 捗がいく
朝っ腹 飲酒運転 取り締まり

朝寝して 夜寝るまでは 昼寝する (永眠)

朝晩の 寺の鐘の音 当てにする

朝昼晩 刺身魚で 食傷気味 (贅沢か)

浅ましか 友の成功 妬みよる

朝飯は 十分あれば 十分たあ

朝飯を 食わん者にや 銭貸すな

味食ろた 天領鯖の その美味さ (ブランド)

味食ろて 鱈ん刺身ば 朝も喰う (天領鱈)

味気なか 賞味期限な 遠に切れ (味見してみ)

味気なか パーティじやるか ぱっとせん

足腰が 叶うはざは 頑張らにや

紫陽花 嫁に似たのか 色変わり

紫陽花よ 桜見習え 散り際を

明日こそ 酒の力で プロポーズ

味付けも 嫁が姑の 跡を継ぐ (家伝)

足湯なら 若い女と 混浴も

足湯には 水虫菌を 培養し

明日は雨 膝の疼きで 直判る

アスナロウ 大器晩成 今九十 (明日は大物になるかもよ)

焦がんな 日はまだ高つか 暮れはせん

焦がんな 他によか人の おらすはず (婚活)

焦がんな ぼちぼちせんば 長ごもてん (鈍行列車)

汗きやあた さあ飲もうだ 弛止みに

あせくつて 気に入ったとが 無かちゆわす

あせくつて 肉片探す カレールー

あせくんな ボロが出てくる 内緒事

汗滴 ハウスの中は サウナ風呂

汗びつしより すっぱんぽんで 総着替え

畦道を 通せんぼする 曼珠沙華

あた次第 みんなの期待 背負わされ

あた次第 私やいつでも よかですよ

暖かい 陽気が桜 開花させ

あたじやろう 人事のごつ よく言うわ

当たつとる 下二桁の切手だけ 言うたもね

頭下げ 腹の中では 舌出して

頭やくる 戦争放棄ば 良かことに (人道支援)

頭やくる 人質捕って 強請りよる (ISIS)

アチャーツ 収穫前に 猪に

アチャーツ トリプルルツツ きや転だ

アチャーツ ひつつかまった ネズミ取り

アチャーツ 干した途端に 降りだした

あちやんなる 空瓶ばかり 場所とつて

あちやんなる あっちいたとけ こん子猫

暑か 言わぬ積もりが きやあ言うた

暑か 仕様ん無かたい 夏じやもね

厚かまし 人ん牛蒡で 法事する (厚顔の微少年)

熱爛が 来るまで待てず 冷やを飲む

熱爛が 五臓六腑に 染み渡る

熱爛で 腹の中から 温もろう

熱爛あつかんに おでんでよければ かたらんな
厚着あきして 寒グロ狙い 瀬に渡る
厚着あきして 氣嵐きらんの海 朝撮りに
厚着あきして 歳が骨身に 応えよる
厚化粧 言われたくなか 薄毛症うすげしやう (脱毛症)
当てならん 薬や毒ほど 効き目無か (毒はテキメン)
当てならん 内緒ちゆうとに 喋しゃべつとる
当てならん 見ると聞くととは えりや違い
後が良エ 早う真打ち なりなつせ
後が良エ 揺れる吊り橋 お前行け ネット句会 4月
後が世話 私うちがおらんば どうなつと (何もしきらん)
後忍しのべ 飲んだあんたの 自己責任
後退すざり 行いうごつあなか 歯医者殿どん
後退あしすざり 高所恐怖で 目が回る
後退あしすざり ばったり熊と 鉢合わせ
後で良か 残り物には 福ばかり
跡取りに 任せてしても ほつとした (生前贈与)
後にする エレベーターが ブウていう
あと僅わずか 狼狽うろたえんなら のさらんぞ
あと僅わずか 高い買い物 もう出来ん
あと僅わずか 残った髪毛 超貴重
穴キャベツ アオムシどもに 試食させ
あの手この手 詐欺さぎの手口も 巧妙こうみょうに
あの手この手 商売人の したたかさ
あの世でも 咲いて居ろうか 曼珠沙華

新卸あばおろし 傷つけんごて 用心ゆうじんしゅ
アホらしか 自慢話のろけにや うんざりぞ
アホらしか 惚気話こわもての 聞かるるか
甘え声 あこの強面こわもてが 骨無しに
甘え声 可愛い女 演じよる
甘え声 頑固爺じじいも 骨抜きに
天草大王 味がこりやまた コケツコウ (結構)
天草灘 岩打ち砕く 波飛沫しづみ
天草灘 うねる荒波 岩揺する
天草灘 地球の丸み ゆう判わかる
天草灘 燃える太陽 丸呑みに 潮騒 31
天草灘 椰子の実一つ 打ち寄せる
天草の 感謝の遍路 皆みなの兼宗 (神仏混淆こんぶこう)
天草の 今日こんにちあるは 鈴木様 (鈴木三公)
尼の夢 結婚式は 教会で
甘過ぎる 孫の頼みが 断れん
天の邪鬼 すんなと言えば したくなり
天の邪鬼 飲もうと言えば 酒辞めた
雨上がり 傘置き場じゃが 傘捨て場 (処理場)
雨上がり 背中一杯 しゃぼて打つ
雨上がり 山の稜線りょうせん ハイビジョン
雨の音 やれ気兼ねなく 二度寝入り
雨は嫌 お天道さまが だあい好き
雨は嫌 お礼言てんといたい 天道さま
雨降つて 固まり過ぎた 畑打つ

雨前は せしきやじゃって 構うかまなな
雨模様 膝が一番 判つとる
雨もよか 朝っぱらから 飲みよらす
雨も良か 想定外の 暇潰し
雨も良か ちつとは部屋の 片付くど
雨も良か 半夏はげだご団子蒸して 潤うる憩やすい
雨もよし 相あ合あい傘で どうだろか
雨もよし 紫陽花園あじさいに 人集ひとだかり
雨もよし 傘は一つに 身は二つ
雨もよし 仕事忘れて 骨休め
謝れど 謝り足らず 戦後処理 (未来永劫謝ろう)
あよっこい たったぎやしこば 出し洩り
あらいやだ 好きなる私も 考えた
粗探あつさがし よくも調べた 元の彼
洗わんちや そんなま炊いて アラ旨うみや (無洗米)
ありあわせ 酒さかなの肴は 塩鮭しほで
ありあわせ 亭主留守なら さささつと
ありあわせ 何でもいいの 一人なら
ありあわせ 夕食支度 サボタージュ
有り難かげこうむや お蔭被り 息災そくさいに
有り難かげこうむや お大師様のお導き
有難かげこうむう ゴミに出す前 手を合わす
有難かげこうむう 添うて貰うて 五十年
ありがとう めっちゃ無かどが 俺は好き
ありがとう やっぱ長生き せにゃんばい

あります！ 躍起やつきになつて アラ探し (ストップ細胞)
ありもしゆう せしきやばつてか こりもしゆう
ありや食うな こりも食うなと ダイエット
アルバムに 初恋の人 見付け出す
アルバムに 初子ばかりが 何冊も
あればある スーパーじゃある なかたなか
あればある チラシは総よ パチンコ屋
あれも食い これも食うては 食い残し
あれもこれも 試食するだけ 買う気なし
あれも塗り これも塗りよる 試供品
あろばまた 今先別れ また会うた
あろばまた 達者うしとこだ お互いに
慌ただしさ しばし忘れて 座禅組む
慌ただしさ 師を追い越して 走りおる
慌あわつんな 急せいで死んだ者 多かもん (急せく：塞ふく)
慌あわてもん 靴おば見てみる あつちやこつち
安気なもん 親爺おやじがおらんば 昼寝ひんねして (ぐうたら)
安気なもん どこに行こうが 何食おが
案じるより 銭を呉れたが 有り難かげこうむか (案じるより団子汁)
案じるより 団子汁だごじゆ食たが 増ましじやつた
案ずるな 爺おやがついとる 銭もある
案ずるな 怪我で済んで 良かったぞ
案ずるな 留守宅ちゃんと 見張つとく
あんたから 貰うたもんな 名字なづなだけ (授さずけてやつたらが)
いい笑顔 緊張見せん 球児きうじたち ネット句会9月

いい笑顔 煩惱なんの つんぶるて

いい笑顔 横綱二人 やつつけた

言い聞かせ あるて思ふな 親と銭(あるのが借金無いのが貯金)

言い過ぎた あれば良かるとに 削除キー

言い過ぎる 口のチャックは 閉めておけ

いいぞいいぞ 座布団の舞う 土俵上

いいぞいいぞ 達磨の用意 当確ぞ

言いたい放題 盛り土を暴く 厚化粧

言いたい放題 あれじゃ長うは 続くみやあ

言いたい放題 俺は市議だぞ 覚えとけ

言いたい放題 権力の座を 鼻に掛け

いいなあ 代わり代わり 子が介護 熊日 7/25

いいなあ 子は総よとも 家建てて

言うておく 親の意見な 聞くもんぞ (百に一つの徒もない)

言うてよし 言わぬがよかか きゃーしんめ

言うとも無か 子に聞かされん 恥曝し

言うなぞと 言われたばつて きゃー言うた (内緒伝言)

言うばかり 体がついて いききらん ネット句会12月

遺影には 髪も着物も すげ替えて

家が良か 実感できる 旅が良か

家建てて 男を上げて 嫁貰ろた

いかめしか 仁王立ちして 睨うどる

いかんいかん 赤提灯の 招きよる

いかんいかん 選挙権より 自立しろ

いかんいかん 用心棒を 雇う国

生き生きして 鬼の居ぬ間の 女性会

生き生きして 趣味に没頭 出来る妻

生き写し 似れば似るもん 仕草まで

生き写し 似んでよかところ 似てくれて

生きちやおる 生かされている どうろころ

生きてこそ 野良で働く 果報者 (死んで花実が咲くものか)

行き損ね 貰い損ねと 結ばれた (縁は異なるもの味なもの)

意気投合 契り結んだ 赤い糸

意気投合 酔いが覚めたら 熱も冷め

活きの良か 腹は無かるとに ばて狂う

意気地無し 内はたがりの 外ぼつそり

幾らかな 財布出す振りさすばかり

いけたふう なんちゆう格好 しとるか

潔よさ 曾婆あさんに ならしたと

遺産分け 不動産より ゲンナマで

医者曰く 患者あつての 飯の種

医者曰く たまにや替って みたいもの

医者曰く 値切られんところが いっち良か

医者通い 眠られんちゆうて 昼寝さす (不眠症じゃか)

異常なし お陰で口は 達者かと

いじらしさ 途端に飯の 味がする

いじらしさ 浪人分を 弁える

いずれまた あの興奮が 覚めぬうち
いずれまた もうイヤですよ 大地震

いそいそと 旅の前夜は 眠られん

忙いそがつさ 盆と正月 一遍に

忙いそがつさ ゆたつと飯も 食くとられん

急げ急げ 取り込まんなら 雨の降る ネット句会8月

居た居た 肥後もつこすの 生き残り

居た居た 幻の魚 木に登る

行たいちり 戻つても来ん どけ居りろ (徘徊)

胡座 お経が済んだろ 正座する

痛さ痛さ 痛さ一時なんてウソ

痛さ痛さ 竹しな刀片手に 容赦なく ネット句会4月

痛さ痛さ デッドボールを もろに受け

戴いたきます 命いのち戴きたく 感謝して

いたるところ 青山あれど 仕事なし

いたるところ ブルーシートが お気の毒

行たんみゆう 何様なんさま美味まか ちゆう話し

行たんみゆう 美人のママが 居らすちゆう

一度どま 銭の心配 して見ちやあ

一夜明け 夫婦喧嘩は 嘘のごて

一夜にして 安穩破り 地獄絵図

一夜にして 二重にローン 抱えにやん

一回どま いいじゃないの ダメ駄目 (NON)

一緒くた 分けて資源に すれよかて

一心不乱 四五手先読み 指す将棋

一心不乱 玉追い掛けて 弾きよる

一心不乱 テグスの当たり 探りよる

一日が 無事に終わって 茶が美味か

一ちよ残し 太つとるけん 瘦やせ我慢 (瘦せの大食らい)

何時いつ迄までん 親にせびろて 思うとる

何時いつ迄までん とつとつともとつとじやろね

何時いつ迄までん なんかかって いっしよろだ (あるて思うな親と銭)

井戸端の 現代版の ゴミ置き場

田舎ならでは 鍵も掛けずに 出掛けとる

田舎ならでは 自給自足で 暮らさるる

田舎ならでは パンツいっちよで 夕涼み

田舎ならでは 星空眺め 露天風呂

田舎道 猪に道 譲らにやん

田舎道 直其処ちゆうが まだじやるか

田舎道 じゅつくわりだらけ しゃぼて打つ

田舎道 鉢合わすれば やおいかん

田舎道 道聞こうにも 人気ひとけなし

稲荷さん 豊年祈願の 神頼み

犬の餌 またもカラスが 押っ盗った

胃の霍乱 何じゃかんじゃ 喰くクレーター (鬼の霍乱 || 暑気払い)

猪が 家んぐるりば 去さる来きよる (領海侵犯)

猪が 人口よりも 多ううなつた (過疎地)

猪に 掘り返されて 道普請

猪に 貰もらた筍 今年初

威張いばつさが 娘がダンプ 乗り回す

威張らるる 唯一嬢の 前だけは

いましがた 最終便が 出たげなぞ

いましがた 津波発生 即避難

今時の ヤマトナデシコ いばつさが (ナデシコジャパン)

今になって 過去の過ち 悔やみおる

今になって つくづく思う 親の愛

今になって 泣き言うて 何になる

今になって 嫁になりての おらずどか

いまは今 あがん馬力は もう出らん

いまは今 時代錯誤も 程がある

いまは今 地位も立場も 入れ替わり

いまは今 昔の苦勞 忘れとる

今風に LEDの 迎え火で

イヤすかん 好かんじやなかば 人前じや

イヤすかん ツインがいつちよ 空いとるて

いやなこつ 来世は二度と 添いません (こりこり)

嫌になる ドローン買って ドロンしゅう

いよいよ五輪 五十インチに きやあ替えた

いよいよ五輪 世界平和の 輪でつなご (ネット句会6月)

いよいよ五輪 テロに警戒 せにやならん

いよいよ五輪 日の丸いくつ 揚がりいろ

要らんかい 貰うた歳暮は 子に孫に

入れ替わり 流れる水は 腐らない (新旧交代)

色褪せた 亡夫の表札 守り神

色褪せた 花の命と 吾が命

色気づき 茶碗が小に 替わつとる (ダイエツト)

色付いて 錦秋愛でる 紅葉狩り ネット句会11月

色付いて 真つ赤なりツブ 魔女環奈 (橋本環奈)

色付いて 山は有終の美飾る

イワシ焼く 囲炉裏の暮らし 懐かしか

いん萎えて 嬢に内緒の 無うなつた

いんま見とれ あの悔しさは 忘れ得ん

いんま見とれ 捲土重来 期するごつ

いんま見とれ 次期横綱に 手応えが ネット句会10月

大騒動 全員集合 孫8人 (だから子宝)

ううばんぎやあ 海抜ゼロに 家建てて

ううばんぎやあ 活断層の上げなぞ

上は上 下見て暮らせ 慎ましゅう (上は切りなし)

ウエルカム オリソピックで お持てなし

ウオーキング 帰ってくるまで 気が気じやか

ウオーキング 日の出を待つて 夫婦連れ

ウオーキング 他にすること なかつかい

ウグイスの ぐぜり鳴きすりや 興ざむる

ウグイスの ハツカ舐め舐め ホーホケキョ

憂さ晴らし 珠にや釣りに 果行こう

憂さ晴らし 酔いのまわれば 下克上

胡散なか ただの仲じや なかごたる

胡散なか なかなかかな 当たりクジ

胡散なか 逃げ込みじやろう 入院な

嘘じやもね ナマズ地震に 昼寝して

嘘じやろう 禁煙したと 五度も聞く
嘘じやろう ネズミに会うて 逃ぐる猫
打ち合うな 喧嘩する気は 更に無か
打ち上げば 外国人も すっちゃいろ
打ち止みゆう 怪我どんすれば 馬鹿らしか
団扇うちわより 扇子せんすのほうが センスある
打つ杭を 食い入るように 見る家主
うつ壊えて まあだローンは 残つとる
うつすらと 戦後の記憶 蘇よみがえる
うつすらと 残り少ない髪貴重
うつつたつて どけ行きなすか いそいそと ネット句会2月
打って付け 愛嬌あいぎょうよしが 受付に
打って付け 打っ付け大工 こそくり
打って付け 声のふとさで 幹事長
打って付け 出しゃばり過ぎて 弾避よけに
腕まくり 捻り鉢巻 いらっしやい
腕まくり さあいつちよう 仕掛しかかるか
打とうにも 杭は出過ぎりや 打ちきらん
鰻重を 穴の空くほど見てアナゴ
鵜の目鷹の目 相手候補の 粗探し
鵜の目鷹の目 妬ねたみ嫉そねみの 目が怖い
鵜の目鷹の目 掘り出し物は 無かろうか
鵜の目鷹の目 有名人の スキャンダル
鵜の目鷹の目 わずかのミスも 見逃さん
乳母車 車社会の 初体験

乳母車 乗せた子が押す 車椅子
旨いさんま お隣さんも 焼きよらす
旨いさんま 猫に残さず 腸わたも食う
梅の花 道真みちざね公の 稼とらぎ時 (太宰府天満宮)
怨うらむより 恩を忘るな 人の道 (恩人)
熟るる程 穂首ほくびが傾かたむく 黄金こがね糰もち (小金持ち)
熟るる前 ヒヨが金柑きんかん 突つつ挟くじる
嬉うれしかね 搗ついた餅もちより 心持ち
熟れたるか スイカは既に 鳥が食い
売うれに売れ 何時まで景気 続つくりろ
うろ覚え はつきりした事あ 嬬かかに聞きけ
狼うろた狼うろたえて 熱か味噌汁 ひん飲んだ
狼うろた狼うろたえて 飯は噛み噛み 出て来らす 潮騒 31
狼うろた狼うろたえろ 最終便に 間に合あわん
狼うろた狼うろたえろ さつさ搗つかんば カサコック
噂うわさでは 尾ビレがついて 泳およぎよる
上うわん空 耳は時々 休やすまる
産うんだ子が 育てられんじや 胸むねえ来ん
運うの良か 三途さんずの川で 引ひつ返し (Uターン)
運うの良か 初心者しんしんばって 鯛たい釣つった
運うの良か 高額ジャンボに 当あたらした
永眠か あがん寝たねたたに まだ寝ねとる
ええ手際 いつ嫁よめっても よかごたる
ええ手際 器用貧乏 人助け
ええ身分 子は宛あてごうて 飲のみ会あい

笑顔 ことばに勝る 心地よさ ネット句会11月

笑顔 黙っていても 気が和む

駅伝の タスキトレン取れんで 繰り上げに (train)

えげつなか 他人が失敗 吾が手柄

えげつなか わーがぼつかり いい格好

エコライフ 電気消したりや 子が増えた

エコロジィ 湯たんぽ代わり 猫と寝る

絵空事 済まされんところが 稼ぎ面 (年収)

えずらしか 目の縁や青か お岩さん

えずらしか 釣れば釣るる 配らにゃん

得手勝手 吾が良か面 つくる気か

恵比寿顔 心残りは 何もなか (にっこり・ぼっくり)

恵比寿さん 埃被って 苦笑い

えらい勢い 海外店舗 増やさした

えらい勢い 出世街道 つつ走り

えらい勢い 飛ぶ鳥落とす AKB

選り好み しよる間が 花だった

選り分けて 銭にならんた 自家消費 (地産地消)

選り分けて 服喪見舞いの 多かばい

LED 丈夫で長持ち はげ頭 (発光ダイオード)

LED イルミネーション 大流行 (青色ダイオード)

エレベーター 片足挙げりや ブーが止む

エレベーター 最後に乗れば ブウという

エレベーター 最後乗つとば 躊躇わす

縁側で 耳垢堀じくり 膝枕

炎天下 脳うっだすぞ 憩わにやあ

炎天下 ものともしない 球児たち

縁の無か 年の差なんの 言うとれん

エンブレム 外野席まで 騒ぎ出し

エンブレム フリーハンドで 描きたい

エンブレム 水戸黄門が 呆れとる

遠方から お歳暮だけで 繋がって

遠方から 同窓会も 最後かも

閻魔の眼 心の奥を 見透かして

延命で 意識なかとに 愚うらしか

遠慮無し 財産よりも 銭がよか

遠慮無し 出戻りが幅 きかせとる

おいおいと 言うなぞ老いが 近うなる

美味しいもの 食わせて相手 油断させ 熊日

美味しいもの 孫の土産に 持ち帰る 11/3

おいそれと ちいて行くなぞ 大事する

老いたつちや ときめきたかとよルージュ引く (晩熟老恋)

老いの一徹 子に従うた まだ早か

オーイお茶 手為い飲まんば 持つて来ん (セルフサービス)

会うて話そ メール見たねと 電話さす (文明の利器)

横道さが 他人は構わず 吾道

仰うなけば どしこでん入る 上戸口 (漏斗)

大食らい 口に旨かた 腹にや毒 (腹八分)

大声で 応援団が 加勢さす

大声で 内緒話は できん人

大声で 間違うたつちや 気にもせん
大声の 見舞客には 困り果て
大地震 一夜明けたら 地獄絵図
大地震 火災に遭わず よかったぞ
大地震 熊本城も ひちやくわちやに
大地震 自身で避難 自信ない ネット句会6月
大地震 這い蹲うて なまんだぶ
大地震 避難袋どころじゃなか
大地震 避難袋を さでださん
大地震 入浴中も 待った無し
大相撲 これでホントに 国技かい
大掃除 どっからすつとう 居間でしよう (今でしよう)
大助かり 器用貧乏 人宝 (世のため人のため)
大違い 聞いて極楽 見て地獄
横着な わーが領土に しなしよる
おお冷てえ 節電便座に 跳びあがる (条件反射)
大広間 這うて座って 寝そべって
オール電化 こつで世話無し 嬪殿下 (電化：殿下)
お返しは 頑張る姿 見てもらお
お陰様 人は一人じゃ 生きられん
おかしかぞ 灯りも点かん 戸も開かん
おかしかぞ 若作りして 出掛けらす
おかしかね 神を信じて テロリズム
おかしかね 聞いて貰うた だけじゃって
可笑しかね 君麻呂だけは 本音言う

おかしかね どこせせつても 良うならん
拝みたい 今年は富士の ご来光
拝みたい 下げた曾孫の 晴れ姿
拝みたい わが家さておき ボランテイア
起きなさい 起きろちゅうとに コラ起きろ
沖繩が 東北よりも 寒そうで
置きみやげ ぽんと大金 寄付さした
お客人 子どみやあっち よし退けぞ
置き忘れ 雨が止んだら 用事や無か
怠るな 生前贈与に 子の躰
お断り 十八歳は 選挙だけ ネット句会8月七
おごられたごて我が子にも おごりよる
お下がりか 次男三男 俺や嫌だ (新品が欲しい)
お下がりは 案山子になつと きゃあ着しゆう
お騒がせ 勝ちに拘る 役相撲
お騒がせ メトロのドアの ベビーカー
お騒がせ 吾あがでなおいこうどつた
惜しいこつ 白髪抜き過ぎ 禿なつた
押し切った 烏合の衆の 多数決
怖じ気づき 検診せんで いっちよこ
惜しげなく ぽんと大金 寄付なさる
お四国の 巡礼地から 砂貰い
押し黙る 妻と黙って 飯を喰う
押し並べて 作況指数 去年並
お喋りが 口に付けたか 万歩計 (二万語)

お喋りが メインディッシュの 同期会

教ゆるは 学ぶの半ば 遠回り (生涯学習)

おぜえこつ 仮設住宅 不自由から

おぜえこつ スタップ細胞 見つからん (溺方)

遅くとも せんよりはまし 親孝行 (早よせろ)

遅くない 苦い経験 バネにする ネット句会4月

遅くない もう一花咲かせましょう

遅すぎる 離婚したのに 子ができた

遅すぎる 三歳過ぎて 子の躰

煽つんな 調子に乗って 歌止めん

穏やかな 母の笑顔で 頑張れる

落ち込むな それがどうした 奮起せろ

お茶席の 作法知らんば 笑わるる

おちよくって 声掛けたつちや 知らん振り (よか女御)

お猪口から グラスに替えて 宵の月

おつきあい 薬飲み飲み 三次会

オットット あわや倒産 駄目夫

オットット イギリスだけじゃ済まんぞで

オットット 角石だけで 持ち堪え

オットット そこは親爺に とつとつと

オットット 亭主は留守で 言うたもね

オットット ナマズの上じゃ 建てられん ネット句会6月

オットット 橋の段差で 舌嚙うだ

お手のもん 活き作りなら 任せとけ

お天気は 膝が雨だと 教えよる

戯けとる 火男踊り 撮つとつと

男しにや 産みの辛さは 解らんど

男じやろ 我慢しきらん 筈が無か (しきらん時もある)

男とは 度胸ばかりじゃ 渡られん ネット句会2月

男とは 無口のほうが 良かごたる

男は好かん 強がり言うて まだ独り ネット句会7月

お年玉 数は減ったが 額が増え

お年玉 孫のガマグチ あぐつちやく ネット句会1月

お年玉 貰うた覚えは 更に無か

大人しか 遣られたろうば 遣り返せ

大人つさ 子どんがときや 忠実かつた

大人つさ 飲まんば喋り きらっさん

おとなつさ ひとりゲームに はまつとる

驚きました 引きの強さに 力づく

驚きました 孫が留学 するて言う

お隣は蒲焼きうちは臭いだけ

おとろしか もうM⁷だけは のさんばい

鬼火焼き 悪霊払うて カツポ酒

お花見の ブルーシートで 占拠権

お雛さま 片付け忘れ まだ独身

重かるで 今月腹は しゃっしやつて (臨月)

お袋の 口癖真似て 腹八分

お袋も 妻も嫁じよも 母の日か

お遍路の 行く先々で おもてなし

お遍路の 心身清め 般若湯

覚え書き そがんた書いた 覚え無か

覚え無か そがん約束 したつどか

覚え無か 昔のこたあ 婆に聞け

おぼつかねえ かじられた脛で 支えにゃん (スネかじり)

お祭り 踊ってハイヨ 見てハイヨ

お土産に 買った積もりが きゃあ飲うだ

お土産の 大吟醸は 話しだけ

お迎えよ 聞こえん時や お迎えよ (オーイ老い)

おめくなど 人差し指で 口塞ぐ

おめでどう 今年の干支は 何年しよ (なくんしよ)

思い思いに コスプレ衣装 化けの皮

思い思いに 似合うた鍋に 合うた蓋

思い出す お蚕さんは お座敷に

思い出す 小父の出兵 旗振って

思い出す 好きちや言えず 純じやつた

思い出す 竹槍構え エイツヤー

思い出す 防空壕で ナマンダブ

面白くない 貸した元手で 儲けだし ネット句会1月

思たごて はつきり言うて 嫌わるる

お持てなし 受けた昔が 懐かしか (隠れ家の里)

お持てなし 裏も無かとが いっちよか (表裏一体)

お持てなし 感謝感謝の 巡礼地

お持てなし 畳の部屋が やっぱ良か

お持てなし 亭主八杯 客二杯 (裏はある:手酌)

徐ろに 腰をもちやげて 後の先で (双葉山)

親爺居る? 妻が即答 要リマセン (no thank you)

親爺ギャグ 本人自慢 側我慢

親爺留守 臍繰り出して 数えらす

親となり 子を持って知る 親の恩

親の真似 見よう見真似で 作りよる

親離れ 運動会にや 来んちやよか

親米寿 還暦の子に お小遣い

親譲り 他所の息子ば 見てみさい

親看取る 子に看取られて 順送り

お呼びじゃか せからしかつが 混ぜくって

居らっさん 足腰鍛えて 良し悪し (徘徊)

おりや知らん 見ざる聞かざる 関わらず (沈黙は金)

俺え勝か 自信のあれば 掛かってけえ (逃げるが勝ち)

俺オレと 言うのに妻は 電話切る (オレオレ詐欺にご用心)

オレオレに 俺の息子は 此処え居る

オレオレに 引つ掛かったりや せんどもん

オレオレに 振り込ませたい 所得税

オレオレの 騙す手口も 国際化

俺がする 俺がせんなら 誰がする

俺の椅子 何時の間にやら 妻の椅子

オレは外 鬼が豆撒く 節分会 (鬼はウチ俺はソト)

おれば邪魔 出掛ければ事故 世話なこつ (粗大ゴミ)

俺は暇 猫に手を貸してもよかよ

俺よりも 病院代の 掛かる猫

下ろしたて 辛か大根 俺好み
下ろしたて 一寸の傷が 気に掛かる

おろみぞか 来世も一緒と 猫に言い (オレより猫かよ)

恩着せて 受けたご恩は 忘れとる

温泉な 良かばつやっぱ 我が家の湯

温暖化 ガソリン依存 脱却か

居ん為すか 独居老人 声掛きゆだ (安否確認)

女風呂 井戸端の後 会議中

かあさんは? ただ今よりも 先に言う

かあちゃんの 笑顔で今日も 頑張れる

カーナビに 周辺に来て 見放され

カーナビに 載っても居らん 人気無し

カーナビは 間もなく左 ウソ教え

飼い犬が 力関係 ゆう見とる

開演を 待ち草臥れて 長欠伸

買い換ゆう 先見通せる 眼鏡なら

介護イヤ 相続権は ちやつかりと

会席は 良かばつやっぱ 母の味

買おうばつて どこまで値引き さすもねろ

替えられん 千の蔵より 子は宝

抱え得ん 漬け物重石 重過ぎる (妊婦)

嬢殿下 ビフォーアフター したもねろ

かからせん こなし壊せば 物えならん (Don't touch it)

掛かり付け 薬はツケの 利かんどか (効かん)

柿食うけ 旨か熟柿の 千切りたて

限ん無し あるて思うな 親と銭

欠き餅どん 噛みなつせんか 小正月

限りある 人生だけんと 今日も飲む (百薬の長)

隠し事 まともに私 見れますか

核持つて 核持たせんで あろうかい

掛け金は 溝に捨てたと 同じこつ (消えた年金)

駆け込いで 何か無かかな 腹減った

掛け声ばかり 金はあるが 出すとなら

駆け込まず 無塩の鯖に 腹損ね

掛けとつて オリが眼鏡は 知らんかい (我が目は見えん)

託つけて 三度も叔父を 死なせよる

籠に摘む 花の冠 蓮華草

過去のこと なまじ詮索 せんがよか

籠の中 何時から始終 シジユウカラ

籠の中 自由が欲しい 開けゴマ

カサカサ 荒れた母の手 じつと見る ネット句会4月

カサカサ 背中搔く母の手愛し

貸した物 呉れたと思うて あきらめろ

柏手に 弘法大師の 苦笑い (神仏集合)

風邪薬 風引いとれば 効き目無か

風邪引いた ちった気持ちの 緩うどる

仮設住宅 いつだ建つやら マイホーム

仮設住宅 贅沢言えば 罰かぶる 熊日 7/29

加勢人な 頭数だけ 揃わした

がたがた ゴトゴトくねる 田舎道 ネット句会8月

がたがた 抜かすな俺に 任せとけ

カタカナ語 意味もゆうゆう 知らっさん

カタカナ語 使えばちった 偉う見ゆる

片付かん 勿体なくて 捨てきらん

片づけ下手 断捨離できぬ 苦勞人

片づけ下手 勿体ないよ 断捨離は

片付ける 飲うだ後は 様態して(散乱)

かたっぱし 出された料理 平らげて

がたのきて 骨が鳴りよる 古稀古稀と

形見分け 貰うたばって どがんしゅう

活気無か どがんかせんば いかんばい

かつとしゅう 稼いだ銭は 使い切り

かつとしゅう 貰た年金 薬代

合掌し 無病息災 寺詣で

合併で あかねすいとは 何処ちゆかい

がつぱり 稼いだ筈が 残らない

がつぱり 収穫前に 水浸し

がつぱり 父の日ばって 何も無か

がつぱり 見返り求め 大誤算

がつぱり 儲けた筈が 税金に

がつぱり 山のホテルで 海の幸

がつぱり 楽にならない 暮らし向き

家内留守 卵掛け飯 手間要らず

家内留守 一人昼飯 皿も留守

家内留守 良かちようらいで 飲みよらす

ネット句会2月

金じやない 言うのは持った 人ばかり

金なるある 行たち来うか 温泉に

金なるある 昨日年金 下ろしたつ

金なるある 不老の薬 無かもねろ

金なるある 持て余すほど 暇もある

金になる テロの標的 日本人

金はある 暇もあるけど 遣る気無か

金は出す 非軍事支援 金だけか

金儲け 大取りするより 小取りせろ

金持ち 金を使わず 金貯める(投資)

金持ち 身銭切るこた とんとせん

彼女との 夢にひよくつと 妻が来て

彼女とは わざと別々 写りよる

壁ドンで ベニヤ板壁 うつぽぎやた

我慢出やあて 気張って腰は ひん曲がり

我慢出やあて 子に残そうて せんちやよか

我慢出せぞ 稼ぎに追いつく 貧乏なし

我慢我慢 我慢も限度 打ち切れた

我慢我慢 灸の皮切り 次は楽

神構うな 仏放つとけ 崇り無し(廃仏毀釈)

紙コップ 注いだ端から 吸いよつて

紙コップ 早う注がんと 吹き飛ばす

神頼み 頼みつばなし 利益なし

神頼み もつと賽銭 張り込まじや

雷は 金目のものが 好きらしか

ネット句会2月

雷を 蓄電すれば 良さそうなる

蚊帳の外 関わるよりも 出てはちけ

から一生 嬬にや頭 揚げきらん

唐芋に 鯛の菜で 育ったと (食糧難)

唐芋の 茎も根も食て 凌いだぞ

カラオケに あまり誉れば 逆上せらす

空くじに 当たった者な 符の悪か (タヌキの宝くじ)

ガラクタばかり いつか役立つ 時が来る

ガラクタばかり 使えるさは 役立った

ガラクタばかり でも断捨離は できません

ガラクタばかり 悲喜こもごもの 詰まっとる

ガラクタばかり 勿体なくて 捨てきらん

ガラクタばかり 役目果たして 忘れられ

空振り やつと逢えたりや 仏様

借りた傘 雨が上がれば 邪魔になり

借りた金 お貸し下され 幾久しゆ (催促無し)

加齢臭 カレーの臭い 好きちゆわす

加齢なる 一族になり 先がねえ

カレンダー 年金日だけ メモのある

可愛くない 恩師の之恩 忘れとる

可愛くない 自分の手柄 ひけらかし

可愛けりや 旅費頂戴と 脛かじり

買わないと 損するようで つい買うた

瓦葺き 流れ作業の 伝供取り

変わり果て かつてはオトメ 今フトメ (ミトメます)

変わり果て 金持ちだった よめりさき

願掛けて 頼んでばかり 利益なし

考えて 考えた末が この程度

考ゆう 偕老同穴 俺や嫌ぞ (共白髪)

考ゆだ 自然な有限 代替えば (代替エネルギー)

考ゆだ 遣られつ放し 良かもねろ (無抵抗)

顔黒は 今じゃパンダの 眼黒に

関係ねえ 見ざる聞かざる 気が利かず

勘定は そけ置いとって 手の抜けん

簡単ぞ 手抜きじゃなかと エコロジ

感謝して 俺がオレがの 我を捨てる

爛つけば 待つとる間 冷やを飲む (待てないの)

感動すつ まだ喝采が 鳴りやまん

乾杯 飲みつ飲まれつ もう一杯

看板の 猛犬注意 チワワ吠え

還付金 無いも同然 妻のもの

勘弁してくれ またの値上げに 音を上げる

勘弁してくれ また税金の 無駄遣い

還暦で 第二の人生 踏みじゃーた (赤ちゃんちゃんこ)

気合い入れ 寒さも寒さ 寒稽古 (大寒)

聞いてやれ 愚痴もお茶も 飲み込もうで (飲兵衛)

議員ちゆて 為にやならでん しこっとる

気が合うて 一期一会の 旅の宿

気が気じゃか 帰りが遅か 日暮れ道

気が気じゃか 大型台風 まっぼうし

気が気じゃか 孫が一人で 来い来りろ

気が知れん イスラム国に 志願兵

気が知れん 散らしたなーり 果行かす

気兼ねして まごついとれば 結ばれん

利き酒で 五臓に効いて 酔い潰れ

効き過ぎて 今夜飲まんて よかごたる ネット句会1月

聞き飽やた 明日からにする 休肝日

聞き飽やた なんやまたそん 話しかな

聞き飽やた 他にや話題は 無かつかい

菊薫る 蘊蓄要らぬ 紋所

菊薫る 大輪もよし 野菊でちや

菊薫る 丹精込めた 一文字

菊薫る 武者人形に 蝶が舞う

菊薫る 里の祭りも ひっそりと

聞く耳は 持たぬ頑固が 聞き流し

期限切れ 親父が食たが どうもなか

聞こえとる? どうせ聞く耳 持たん爺

喜寿祝い 同窓会の 生ン比べ (起死回生)

喜寿傘寿 もうひと花ば 咲かしゆうだ

偽善でも せんよりは増し まず支援

汚かね たまればまあだ 欲しゆうなる

北枕 迷信じゃるか 良う眠る

鍛われて もう加勢には 来らっさん

貴重な時間 感謝の祈り ナマンダブ

貴重な時間 出勤前の アイメイク

きつい坂 家康さんも 慌てない

きつい坂 歯を食いしばり 乗り切るぞ

きつとごえ 一斗筵で ドジョすくい (安喜節)

来とらっさん 介護でつれに つき添うて

気に入つて 嫁にしゆうばっ 若過ぎる

気に掛かる 電気も点かん 戸も開かん

気に食わん 貸した元手で 儲けだし

気に食わん モンゴル横綱 国技かよ (モンゴル支店)

気にすんな 俺の奢りだ 飲んでくれ

気にすんな 会長さんが 払うてた

気にすんな 釣れんだったら 魚屋で

気にせんで 紳士トイレは 空いとるよ

衣着せず 本音で言える 風呂談義

気の合うて 肴もいらん 友と飲む

気の強さ 挨拶せんと 睨うどる ネット句会8月

気の毒っか 稼ぎも得んで 旅行して

気の毒っか ゲートボーラー 穀潰し

気の早さ 刺身小切つと 待ちきらん

気の早さ もう打ち上げの しこうさす

気晴らしに クレー射撃で 腕試し

気晴らしに タコ二三杯 捕れば良か

気張んなす ぼちぼちせろな 明日もある

キビナゴは 爪先だけで こう開く

寄付集め 渋り面する 門構え (持った者は持ちたがる)

着膨れて メタボじゃ無かよ 腹捲り
ギフト屋が 母の年忌を 知っており
気分転換 鱈どん釣りぎや 果て行く
気分転換 弁当下げて ピクニック
気まぐれが 維新立ち上げ 威信掛け
気まぐれが 新党とやら 立ち上ぐる
気まぐれが まあた病院 替えとらす 熊日
君は偉い 相手をたてて 足るを知り 11/20
君は偉い 言われる前の 気働き
君は偉い 知らん振りして いっちよかす
君麻呂は ずばずば言うて ウケ狙う
決めとつと 後はあんたの 意のままに
決めました 色々あつて 元の鞘
決めんでよ 彼女なんかじゃ なかですよ
気持から 雨には雨の 過ぎし方
気持から 笑顔でやる気 引き出させ
肝っ玉 敵も味方も 騙しきる
貝掘りぎや 子どんば連れて きやあ行こだ
きやあ眠とる 児はおっぱいに ぶら下がり
きやあ眠とる テレビ放送 砂嵐(アナログ)
きやあ忘れ スリッパのまま バスに乗り
きやあ忘れ まあだグランド 走りよる
きやあ忘れ 見た顔ばつて 名が出らん
逆転に 運で片付けらりゆうかい
逆転に 余りに議席 やり過ぎぞ

キャンプ場 父ちゃん俄然 張り切らす
キャンプ場 火の熾し方 子に教え 熊日 8/22
救援に 頭の下がる ボランティア
救援に ヘリコプターが 吊り上ぐる
救援に 寄つて集つて つつ立つて
救援の 余つたにぎり 捨てらした
球児等の あの冷静さ あの笑顔
今日はダメ 急に言うても 泊まられん
教育を! 世界を変えた マララちゃん
狂句には 仮想空想 膨らまそう
狂句には 人生訓を 練り込もう
餃子喰て 息の臭さ 吾知らず(吾が屁は臭うなか)
今日祝儀 お湿替えた娘 お召し替え
兄弟に 短気と暢気 生み分けて(同胞)
郷土から 五輪選手に フィーバー
郷土から 新米届く お盆前
郷土から 特産品の お中元 熊日 8/31
ギラギラ やる気満々 目が光る
キラ炭を 知る由もなし 烏帽子抗
限りがなか 勝つまで相手 させらるる
限りがなか 醜めにや戻る ちゅわっさん
ぎりぎり一杯 着る物なつと 我慢せにや
ぎりぎり一杯 食うていくしこ あればよか
キリギリス 仁丹舐めて 唄いよる
ギリシヤ危機 財政難は 余所事か

ギリシヤには ギリシヤの立場 ギリギリの

義理チョコで 飲む酒何故か ほろ苦か

器量より 愛嬌よしが 俺は好き

きれいな字 教養までが 滲み出て

きれいな字 性格までが 現れる

きれいな字 若かりし日の ラブレター

綺麗からず 誉められたとは 胃の写真 (内視鏡)

気は心 粗茶つちやあれば 有り難か

禁煙は 十回はした 経験者

きんきり舞 忙しかとも 善し悪し

金婚は バランスシート 釣り合うて (ベストカップル)

吟醸酒 飲んで飲まれて また飲んで

吟醸酒 もう一口が 止められぬ

限の無か 何時まで親に かるわるる

金メダル 只の金属 そりやなかる (ノーベル賞)

禁煙の 本を片手に 一服し

食い過ぎる 後半分な とつとつと

喰いっぷり どしこ炊いても 喰て仕舞う

喰いっぷり 痩せる菓は 飲みながら

喰いなつせ 冷えてしまえば おろ旨か

喰い残し もうねまつとりや せんどかね

偶然に 夢見た友と 再会し

食うときは 家族揃たが やっぱ良か

クーラーが 隠居する筈 秋の風
クーラーを 点ける消やせで うちわもめ

愚うらしか 延命措置で 生かされて

愚うらしか 助かったとは 子どもだけ

愚うらしか 魂やうつちよき パーになり (後出し?)

草だらけ 引いても引いても 直き生ゆる

草筆り 草臥れた頃 草も枯れ

くすり箱 越中さんの 得意先

くすり箱 膝んカップが 世話になり

くすり箱 みんな達者で かぜひいた (薬効切れ)

薬屋に 卸せる程の 飲み残し

愚凶郎兵衛 ほんに手の要る 子じやつたが

糞つ垂れ 自慢の糞は 犬も喰わん

糞ナビが 間もなく左 ウソ言うな (カーナビ)

草臥れた 小昼もせんで ぶっ通し

草臥れた 弛止せんば 長ご持てん

くだらない 真を問うての 選挙げな

くだらない 都構想げな 止めとこう

くだらない 飲うで約束 真に受けて

下り坂 膝が笑うて なよなよと

口喧嘩 言いたかこたあ 明日言え

口下手は 本音を言うて 損をする (物も言い様)

口ほどにや 何の役にも 立たっさん

口や開けて 何ぼとぼけて 見とつとな (呆気)

口や堅か 言うたくせして スピーカー (有言)

口汚し 試食程度じゃ 物足らん
ぐっさるある 着はせんばって 捨ても得ん

ぐっさるある 古米古々米 新米も

くっ喋り 手の内までも 証しよる

くっ喋り 話し上手の 仕事下手 (手は休み)

くっ喋り 話のネタも あればある

来っちゆうて 来はせんばって やっぱ待つ 潮騒 31

グッドタイミング 五万人目の 入場者

グッドタイミング 祝辞が済んだころ着いた 熊日 5/11

グッドタイミング 半額シール 貼りよらす

グッドタイミング やっと乾杯 間に合うた

来っとなろ 夜が更けたつちや 待つとくよ

暗いうちから 新聞配る 苦学生

暗いうちから チャルメラ吹いて 豆腐売り

暗いうちから もう豆腐屋が 売りに来た

暗がりです 抱きしめ 初キッス

暗がりです まだ見ゆつとね 野良仕事

クラシカル 七草粥の ベジタブル

暮らし向き 大概てげが いっち良か

暮らしよい 所求めて 避難民

クラス会 ニックネームで 呼び合うて

暗隅で 気づかんだった じゅっかりに

暗隅で 蹴躓じいて きゃあ転だ

暗隅で ようよ鍵穴 さでじゃあた

ぐらちいた 地震予報は 当てならん

ぐらちいた 美人のママに 誘われて

ぐらついで 自前無くなり 総入れ歯

ぐらついで どうも一人じゃ 決めきらん

ぐらついで ヒヤツとさせる ハシゴ乗り

ぐらついで まだ決心の つかんふう

ぐらりする 作物荒らす イノシシめ (共存共栄)

ぐらりする 戦勝国で 威張つとる

クリスマス 一夜限りの クリスチャン

クリスマス 禅宗ばって 肖ろう

来れば来る 次から次い 入れ食いぞ (アジ釣り)

苦勞掛け 母の手握り ありがとう

苦勞知らず 塞翁が馬 明日がある

苦勞知らず 知らぬが仏 気にするな

暗うなつた 日暮じやつた もう上がる

黒光り 大黒柱 威厳在り

経験豊富 失敗の数こそ強み

経験豊富 辛酸舐めて 今がある

経験豊富 歳は伊達にやあ とつとらん

経験豊富 一つ言うなら 十解る

経験豊富 やり損ないが 大概ある

経験豊富 やり損ないも 治させた ネット句会1月

稽古中 じゃがチャッチャより 増しな声

携帯と 亭主の操作 指一本 (remote control)

ケイタイに 用が無か時や 不携帯

敬老会 行くとはいやだ でもタダだ (御樽歓迎)

毛が無しで ヘルメット無し 良かちゆわす
下戸同土 ウーロン茶注ぎ カンパイ
褻稻掘り 稻漕ぐ迄は 待ちきらん(代用食)
血圧が 看護師見たりや 跳ね上がる
血圧が どうも納得 いかんふう
血圧を 納得いくまで 測らする
結構なこつ 既に戒名 貰うとる
結構なこつ 悠々自適 医者知らず
県外移設 そこまで言うて よかつかい
限界ぞ 我慢に我慢 しとつたつ
元気がでる 山頂までは もう少し
元気がでる やつとあの娘と 結ばれた
元気な嫁 一番風呂も 何の其の
元気な嫁 里の仕方に し直さす
健康で 長寿に感謝 神仏
健康法 宿命だから 気にするな
健康法 診察せんで いっちよこう
健康法 神仏頼み 医者いらす
健康法 テレビの話題 すぐ試せ
健康法 まだ口だけは ベリグッド
剣道で 子どもが挑戦 ドウしよう(胴)
剣道で 子どもに負けて 面食らう
剣道で 子どもに遣られ コテンぱあ(籠手)
剣道は 子どもと対戦 もうシナイ(竹刀)
原発に 頼らんエネルギー 太陽光(クリーンエネルギー)

鯉のぼり 近頃あとんと 泳がんと
講演会 一番前は 眠られん
講演会 眠とつた癖に 拍手する(夢うつつ)
講演会 拍手の音で 目の覚めた
好機到来 合鍵そつと 手渡され
好機到来 上司退職 順送り
好機到来 東京五輪 金奪取 ネット句会9月
好機到来 ピンチヒッター ほくそ笑む
高級車 歩けと言うた 医者が乗る
高級車 今度乗るのは 霊柩車(お見送り)
甲子園 まず砂袋 用意さす
工事中 毛が怪我なかばつて ヘルメット
強情か 言うてもとても 聞きもせん
買った後 新製品の ダイレクト
広大か 家の前庭 飛行場
買うところ こうとかばつて 先で着ゆう
効能書き 読み得るところに 効き目あり
傲慢な 領土侵害 軍事基地
超えたいが 安心させるの まだ早い
子が巢立ち 二階は要らん 如てなつた
古稀古稀と 骨が鳴るなり 足と腰(子規の子孫の句)
古稀爺に 米寿の婆が お年玉
ご機嫌斜め 結婚記念日きや忘れ
ご機嫌斜め 電話もせんで 朝帰り
ご機嫌斜め 待っていたのに 外食し

小切りたて 無塩ですばい なめなっせ

ご近所に 洗濯物も 任せきり

ご近所は 持ちつ持たれつ てげてげに

極楽にや どうも行かるる そうに無か

極楽は ことがんもんかと 朝風呂に

極楽は 信心過ぎて 通り越し(過ぎては…)

コケー此処 卵もつたと 知らせよる

ここが潮時 ことがんチャンスは 滅多無い

ここが潮時 代打逆転 ホームラン

此処さん来え ととこれ座れ 飲うでみゆい

心うきうき 旅行鞆の はち切るる ネット句会12月

莫塵敷いて 日陰で小昼 広げらす

コスモス 風に倒され 起こし申す

个性的 誉めようのない 誉めことば

午前様 飼い犬にまで 吠えらるる(門限)

子育てにや 掃き出すごて 銭の要る

こそばいか 来世も一緒 ねえあんた

子沢山 親の介護を 譲り合い(謙譲)

子沢山 育てた親を 誰も看ん

拘って 自産自消の 手為醤油(手作り)

小使いは 大使いより ふとうなる(安かろう高かろう)

コックリも 賛成票に 数えられ

ごっち飯 蓋ば取つとが 早過ぎた(赤子泣いても蓋取るな)

ご馳走受た 酒に飲まれて べろべろに

ご馳走受て 泊まった上に 土産まで

こつで仕舞あ 今年や不作で 買うて食う(保有米)

こつでよし 明日死のうが 死ぬまいが

コッパ団子 貧乏の味 忘れ得ん

こてんぱん 悔っていた 技術の差

こてんぱん 懲りたそうにも なかごたる

こてんぱん やつつけたのは 夢の中

ことごとく 俺の予想は うっ外れ

諺は 語り継がれば 消えてゆく

諺に 処世の冥利 論しよる

断れず 要らんもんまで きゃあ買うた

断れず また役職を 引き受けて

今年も終わり 思えば酷い 年だった

今年も終わり 怖い思いは これつきり

今年も終わり 年末ジャンボ 夢託す

今年も終わり 欲しくない歳 また貰う

今年も終わり 来年こそは いいことが

子に持たす 有り金全部 つんぶるて

この暑さ 命短い セミが鳴く

この暑さ 打ち水なつと してみゆうか

この暑さ 草臥れ果てた 野良仕事

この暑さ 引いた雑草 参ったか

この寒さ 遭難記事に 身も凍る

この寒さ 白い息吐く 通学児

この歳で いくら何でも 派手かろう

この分なら 近くて遠い 国になる

ご破算で願いましては 離縁なり

子は巢立ち 夫は冥土 これからよ (第二の人生)

子は巢立ち 悩み無用で 良かいちり

コブ付きで 二人貰うた 如たるふう

ご無礼な 違法性無し なんちやって ネット句会6月+

ご無礼な 公私混同 民の税

ご無礼な 写真のほうが よか男

細かさ たった一円 値切りよる

細かさ ミリの誤差にも 拘らす

困ったもん 雨ばっかりで 捗らん

困ったもん ふとか台風 こっち来る

細々と 言い聞かせて 婚活に

混まんうち 正月頭に 行たちくう (盆兵児)

混まんうち 孫どん連れて 来れよかて

米やあるか 野菜はあるか 銭やあるか (子に孫に)

ご用心 転ばぬ先に 杖が折れ

ご用心 よかこつばかり 続き過ぎ

細うなつた 親爺の脛を 撫でてみる (スネかじり)

懲り懲りぞ けして戦争 しちやならん

懲り懲りぞ 儲かる仕事 ねずみ講

こりやいかん 赤提灯の ちらついて

こりや煙か 五右衛門風呂が 焚きつかん

こりやどうし 造りもんにや 見えんばい

こりやどうし わが家にや子ども 作らでにや

こりや不便 俺の居場所が じきばるる

こりや便利 政治資金は すぐ化ける

こりや便利 徘徊先が じきわかる

こりやまこて マゴノテよりも 孫の手 (肉感)

こりや見事 組んで直ぐさま 背負い投げ

こりや安か 買うてはみたが 銭打捨て

こりや美味か 今釣り上げた ばあつかり

こりや美味か 店に出しても よかごたる

これ以上 便利になつて 良かもねる

これが現実 命があれば どうにでも

これが現実 天変地異に 泣き寝入り

これが現実 大渋滞で 逃げださん

これから先 自給自足ば 考ゆう

これから先 月にも土地ば 買うとこう

これつきり 最後の滴 漉めおる 熊日 12/2

これつきり 年金日まで 保たせにゃん

これつきり ポケットにある 小銭だけ

これは変 知らせないのが 国策か

これは変 テロや破壊が 聖戦か

これより佳境 ガイドの声も 跳ね上がり

これより佳境 桜の下の 花の宴

これより佳境 やがて朝ドラ エンディング

五郎丸 拜む大日如来さま

ごろ寝して 莫塵の寝心地 確かむる

子を持って 親の苦勞は 子にやさせん
子を持って 親のしたごて 子のしよる
子を持って 親の真似して 躑よる
子を持って 親を越す子に 育てたか
子を持って 帰宅さすとの その早さ
子を持って 写真撮るのは 初子だけ
今頃あ こん連んとん 釣れんとん
魂胆が 猫撫で声で 擦り寄らす
魂胆も あればあったで ご馳走けた
こんでんと とんと採れんと 途絶えたと
来んとなろ 直寝もしよう とうと朝
さあ上がれ 久しゆ振りじやった 飲うんみゆだ
さあ仕事 子作りのゴテ 楽じや無か
さあ仕事 眠かばってん 起きらにやん
さあスタート ぎゅつと靴紐 締め直す
さあスタート フルマラソンに 挑ました
さあ出番 軽く一杯 ひっかけて
さあ出番 十八番の 黒田節
さあ寝よう 早寝早起き エコライフ
菜園の 自給自足は ベジダブル
財産の 取り合い介護は 譲り合い
再稼働 安全性は 保証なし
再稼働 しゃっちがせんちゃ 良かろうで
最後の手 女の武器で おとせませす
財布と相談 受給日までは 持たせにやん

財布と相談 高か買ひ物 もうされん
災厄が 断ち切るるなら ソバを食う (年越しソバ)
幸いに 怪我しただけで 助かった
幸いに こそくればまだ 住まわるる
幸いに 娘が介護 してくるる
さえん顔 まあた彼女に ふられとる
さえん顔 負けたつばしか パチンコに
酒蔵の 幾樽どまあ 飲うだりろ
酒蔵の 試飲したときや 美味かった
捜し物 戻ったばって 見つからん(忘却は忘れ去ることなり)
盃じゃ 面倒臭か コップ遣れ
先がない そがんもだえて どけ行くか
先立たれ 鼻水すすり 三年忌
先走り 吐いたことばは 飲み込めず
先延ばし 直ぐ与えると 癖になる
先延ばし 少しは待たせた ほうがええ
先を越し 俺の十八番ば 唄いよる
桜咲く 咲き始めより 散り際ぞ
桜散り 身辺整理 急かさるる
桜花 一気に春を 引き連れて
酒が良か 二日酔いして 酒は不要
酒肴 ちつとだ分けて くつどなあ (人の牛蒡で法事する)
酒肴 てげてげあれば よかるもん
下げたとば 産みたかばって 授からん
酒の後 失敗談も 数知れず

酒の菜 鱒の刺身が いったち良か
酒飲みが ついに飲まれて へべれけに
酒飲みが どうかい国ば 論じおる
酒飲みが どうと美田は 終やなつた
酒飲みが 瓶は醸めて 帰らした ネット句会7月
酒飲みが 不塩梅かも 残しとる
酒も飲み 煙草も吸うて 長ご生きた
酒止めた 五臓六腑が 悲鳴挙げ
酒やめて なんか娑婆が 狭うなる
差し当たり 食ていくしこは 貯めちやおる
差し当たり 雀に稲の 味見させ (共存共栄)
差し当たり 半分手付け 打つところ
差し当たり むなつけせんば 待ち長んか
匙投げて 俺の腕では 手に追えん
匙投げて とうと修理屋 頼ました
匙投げて レタスはそうよ 鋤込ます
さしゆぶりに 今夜だ来んや 飲うでみゆい
さしゆぶりに 会うて抱き合う 同級生 (hug)
さしよりは あつた肴で 飲みよろか
流石ばい 説得力が ものを言う
流石ばい 天眼通て 言われよる
流石ばい 努力の甲斐が 金賞に
流石ばい 何を訊いても 知つとらす
させてみる どうせ長ごうは 続け得ん
さぞ良かる 九号サイズで ドンピシヤリ

さぞ良かる 子ども巢立ち 水入らず
さぞ良かる 子に立ち替わり 介護され
さぞ良かる 三億円が 当たつたら
さぞ良かる 二人ばりして ハワイげな
沙汰が無か 達者か証拠 気を揉むな
沙汰は無か どがんどがんだ ひとつちやい
座長さん 聞き上手の 話し下手
札入れが 診察券で 膨れよる
サツカーが テロも戦も 忘れさせ
ざつくばらん ため口叩きは程々に
ざつくばらん ニックネームで ロンとヤス
ざつくばらん 敬意忘れちや おらんかい
さつさせろ 何ばもたもた ひとつとか
差つ遣つて 少な過ぎて 引つ込むる
雑草も 可愛か花は 抜くみやあだ
さておいて 他人の落ち度の 粗探し
さておいて 他人には他人の 好みあり
里に融け 天草弁と ごつちや混ぜ
里に融け 肩書きとれて 飲み交わす
里に融け よよして出来る 恩返し
早苗植え 神に報告 早苗饗に
捌けとる 親の知らない ことばかり
捌けとる そこは彼女が リードする
さびれとる 温泉街の 客途絶え
さびれとる シヤッター街の 閑古鳥

さびれとる テーマパークも 客疎ら ネット句会 1月

五月雨に 牡丹崩るる ああ無念

寒うなにか 重ねて着んば 風邪ひくぞ (万病の元)

寒うなった やっぱああたの ソバがええ 久木野優秀賞

猿股は 裏返し着て いっちよこた

騒がしか 授業はとんと 聞いとらん

三回忌 精進揚げさす 未亡人 (もういいかも)

寒かばい 懐の財布 噫する

サングラス 心の奥も 曇つとる

サングラス 心の底は 覗かれん

三次会 眠りかぶって つきおうた

散歩する 四五歩歩いて 引き返す

三本足 耐震補強で よぼんよぼ (ステッキ、あら素敵)

CMが 丁度良かそこ 邪魔しよる

G 難度 日の丸揚げた がたあつた

爺と婆 菜園畑も 薑のたち

爺婆に ちゃん付けで呼ぶ 同級生 (愛称：相性)

爺婆の ヤブ医者揃い 大番外

シーン 天草灘に 日が沈む

シーン 噂の人の お出ましに

シーン 警策の音 ハツとする

シーン 質問に立つ 御長老

シーン 燃える太陽 飲み込んだ ネット句会 9月

シーン もの言わんで 蟹しゃぶる

自衛権 どが解釈 さっしーろ

塩足らん いくら何でも 減らしすぎ

潮時ぞ どうやら運も 尽き果てた

シオマネキ 此処来此処来と メス招く (求愛ダンス)

しおらしか 誰に似たのか 孫娘

しおらしか ついほろり来る 舞妓はん

仕方無か 医者と女房にや 逆らえん

仕方無か 挙式待てんで 出来ちゃった

仕方無か 自然の猛威 為すが俣

仕方無か 天変地異にや 泣き寝入り

仕方無か 橋もつこけて 遠回り

仕方無か 蒔いた種なら 刈り取らにや

仕方無か また日は昇る 明日もある

四月馬鹿 ウソに付き合う 相手なし

しがみつき 五輪澄済むまで 知事の椅子

しがみつき 吊り橋の上で 立ち往生

しがみつき 連れて逃げてよ 年増の私

しがみつき 何が何でも 管理職

叱り付け 説教半ばで 身に覚え

直きぼるる 急にやさしく ならしたつ

直きぼるる どうも家内は 騙し得ん

直きわかる 親そくりになつとらす

直きわかる 藁葺き屋根は 俺家だけ

しくじって すんなりいかん こつばかり

しくじって またしくじって 挑戦し

地獄耳 聞く耳持たん 箸じゃって (耳無し法市)

地獄耳 補聴器なんの 要るもんか (悪口はよく聞こえる)

しこじりて 吾がじゃ上手で 思うとる

四股倒れ 制裁措置も 何のその

四股倒れ 体格でにや 負けん筈

四股倒れ 張り手かち上げ 猫だまし

四股倒れ 優勝逃す ユニフォーム

仕込まれた 主従の恩は どこえやら

支持層に 届かぬ杭の 彼方此方に

辞職して 親の介護に はまらした

試食品 遠慮しいしい ご馳走けて

試食品 食い比べして 腹一杯

静けさが 空気読んでか 眠ってか

静けさが 酒が尽きたか 飲み潰れ

静まり返り 見事な着地 ひねり技

自然界 人情なんて 構い無し

時代遅れ 切腹ものぞ 土下座せろ

時代遅れ 亭主関白 頑固爺

時代遅れ 包丁要らん 料理せにや

時代遅れ 孫にパソコン 習いよる

親しげに 案山子が肩に カラスとめ

したり顔 お使いできた 三歳児

したり顔 箸で大豆が 掴めたよ

羨られ 我が子におなじ 羨する

知っとなって オレと言うのに 電話切る

知っとなるくせ 受付嬢に 聞きよらす (contact)

湿布貼り どこそこ痛み 耐えとつと

して見せて 言うて聞かせて させてみる

して見せて 教えてさせて 誉めてやれ

して見せて 箸やこぎゃんして 握らにゃん

しとやかな 寝顔にも似ず 妻の蹴り

死には得ず 生きていかんば しょんなか

忍び足 伊賀か甲賀の 朝帰り (忍者かも)

持病あり もう最後かも 同窓会 (最後の晩餐)

痺れとる 抜くに抜けない 腕枕

至福の時 乳房啜えた 子の寝顔

死亡率 百パーセント 気にするな

仕舞い込み たーだ虫干し するばかり

始末して 欲しか物も 買いも得ん

自慢する 上手の手から 水が漏る (大洞)

自慢のたね 重成公が 建てらした

自慢のたね 島の陶石 白ダイヤ

自慢のたね 包丁だけで 食ていかす

自慢のたね まあだ医者には 用は無か

自慢のたね 六三三四 無欠席

自慢話 聞いた振りして 竹輪耳

自慢話 せんでおられん 質らしか

自慢話 誰も真から 聞いとらん

自慢話 また始まった 上ん空

地味か服 似合うた頃は 若っかった

終やなつた 退職金も 虎の子も (the end)

湿し替え 履くのはイヤと 逃げ回り
占めたもん 黙ってキスば 受けらした
占めたもん 釣れた魚にや 餌やらん
しもたッ ちよい貰うとが 早過ぎた
霜降りの 半ズボン着る 霜の朝 (昭和男児)
錫杖に 力ん入る 遍路道 (巡礼)
謝罪せろ 何遍すれば 気が済むか
喋繰って だりも料理は そっちのけ
喋繰過ぎ 口のチャックは 閉めておけ
喋繰んな 口が動けば 手が休む
シヤワレット 押した積りが 非常ベル
しゃんとせろ 居眠りしとる 見張り番
シヤンプーは ちいっとでよか エコロ爺 (ecology)
終活は 準備万端 いざさらば
終活も 医者も坊主も 友任せ
自由時間 どん百姓にや 夢も夢
柔軟剤 掛けてくりゆうか 頑固爺
受験生 二浪までなら 良しとする
酒豪客 狼狽え隠す 大吟醸
主人です 言いたくないので 置き去りに
出荷前 夜業したつちや しこなさん
じゅっくわり 頓着なしい ポール蹴る
じゅっくわり わざとチャプチャプ入りよる
出身は 高卒ですと 細か声
出世して 嫁が姑に 成り上がり

春秋の 暑さ寒さも 彼岸ぎり
準備して 生前葬ば すっちゃいろ
準備万端 こつでぐつすり 眠らるる
準備万端 実力発揮 後は運
準備万端 飲み掛かっても 良かですよ
正月が来る お節ぐらいは はり込もう
正月が来る 今年はきつと 福連れて
正月が来る 年金減らす お年玉
正月が来る 孫のがま口 あぐっちゃく
正月が来る 目出度くもあり 先もない
しょうがない 親が親なら 子も子たい
しょうがない 抜いた白髪が 惜しゅうなり
小休止 コーヒーの香に ホットする
常識は 国が違えば 非常識
笑止千万 路上キツスの 未亡人 (醜議員)
笑止千万 審判にケチ 綱が泣く
正直つか 体重計は 嘘言わん
精進揚げ よかろうもんと 旅の宿 (旅は道連れ世夜は情け)
冗談冗談 言うしこ言うて ウケ狙い
冗談冗談 本音も少し 入れておく
焼酎は ロックお湯割り どっちする
商売は そっちのけして 油売る (完売)
消費税 願いましたは ご破算に
丈夫んか 力仕事にや 打って付け
精霊に 初穂供える 早期米

女性たち 亭主のアラを さらけ出し

女性たち 二人で居ても 姦しい

始中終 愛妻からの ラブコール

始中終 ご馳走食ても 良かるかい

始中終 飲うでばかりで 依存症

シヨツピング あつちこつちと カカーナビ (お抱え運転手)

仕様ん無か あるもの食うて いっちよこう

仕様ん無か 言い出しつpeg 罰被る

仕様ん無か 小切るお客に きゃあ負けた

仕様ん無か 選挙に負けりや 従わにゃ

仕様ん無か 好かん国でも 物安か

仕様ん無か 父親譲り 頑固者

仕様ん無か 天の猛威にや 泣き寝入り

仕様ん無か まあた彼氏は 見つかるさい (振られたの♪)

仕様ん無か 吾が蒔いた種 後忍べ

シライ2 狂句にひねり 利かさなん

白髪染め 無駄な抵抗 止しなつせ

白髪抜き 禿とどつちが 良かりいろ

知らん振り 勿体ぶつて 似非笑う

知らん振り 音さえ出んば バレンとに

知らん振り 知ったか振りを 嘲笑う

知らん振り ニンニク喰うて 口拭う (不許葷酒入山門)

知らん間に 夜の蝶々に 羽化しとる

尻い敷かれ 座布団よりも ペしゃんこに

尻い敷かれ そつでも夫婦 円満に

じりじりと カウントダウン 吾が余命

じりじりと 焦らす女の 焦れつたさ

シルバーの 席譲る娘に 胸に来て

しれえつと 聞こえんふりを 決め込ます

しれえつと 馬鹿つくつて いっちよかす

しわしわで 清涼感が 麻のよさ

しわしわで 弛んだ乳に 育まれ

じわじわと 美人の側に 躪り寄り

じわじわと 屋敷内まで 迫る竹

新婚の 下着じゃれ合う 物干し場

人生の 操縦ミスの 墜落機

新畳 大の字に寝て 嗅ぐ臭い

死んだつもりで 生きとるうちに 飲うどころ

新茶の香 先ず神仏へ 上げ申そう

陣取つて 我がものの顔で 島支配

震度七 それ立とうにも 立たれんと

震度七 仏様まで 跳び降りて

新聞な 太か字だけ 拾い読み (ルーペなし)

新聞の お悔やみ欄に 最後載る (最初で最後)

辛抱して 戦後の暮らし 蘇る

辛抱して 避難所暮らし もう慣れた

親友の 退院せんと 酒いけん (いける口)

据え膳に 箸も付けんで きゃあ眠り

末っ子にゃ きつか仕事も おうらゆる

末っ子の 孫見るまでは 生きてたい
据えとけば 子子の湧く 干しなつせ (乾杯)

清々し あの朝顔が しほみおり

すがすがしい エッチ難度の 捻り技

姿見が びっくりするごと 若づくり

スガネよい ちった休めと 茶菓子遣る

好かんばつてん 他に肴も 無かごたる ネット句会 4月

すかんねえ どつちに見方 せにやんどか

素寒貧 何軒ハシゴ したもねろ

好き勝手 金の力に 物言わせ

好き勝手 ハイそれまでよ 好きにして

好き勝手 反省しとる 半世紀

好き勝手 若気の至り 見捨てられ

好きじゃある ひとりで悦に 入つたら

好きじゃある 我がじゃ上手て 思とらす

好き好きで 蚊も瘦せとれば おろせせる

過ぎたかも 焼酎瓶に ヒビの入り

好きばかり ひいきに見ても 上手じゃか

好きばつて 磯のアワビと おなしこつ

隙間風 後塞きせんば スースする

鋤焼きに 卵入れたが 俺好きや

少なめに 焼酎三で よかごたる

少なめに 貰う歳暮と 年賀状

直ぐわかる おずおず目玉 泳ぎよる

直ぐわかる 何かよかこと あつたばい

少しずつ 食費削つて 募金さす

少しずつ 貯めた虎の子 おれおれに

少しずつ 抜いた白髪も 惜しくなり

すこし早め 戒名だけは 貰うとる

すこし早め かるわせてみる ランドセル

すすどうさ 人は押し退け 餅拾い

すすどうさ 夜の明くる前 浜漁り

勧められ 注された酒は 差し交わせ (差しつ差されつ)

進んだる 嫌な仕事は ロボットに ネット句会 6月

進んだる ホテルは予約 してたわよ

スタート 結果は後に ついてくる

スタート 瞬発力が ものを言う

スタート 整備点検 怠るな

スタート 始め良ければ 終わり良し

スタート 走り出したら 考ゆう

スタツプが スタツプ究明 匙投げた

捨つとに 金ん要るなら 置いとこだ (活かせば資源)

ストレスが スイセンの香で 癒さるる

ストレスの 溜まる間は無か 狂句馬鹿

スネかじり おらんと思えば こんだ孫 (この子つたら)

素晴らしか 錦織圭の ストローク

素晴らしか さすが横綱 心技体

すびくねエ 明日も霜か 早よ来春 (春よ来い)

すびくねエ 歯痛堪えて 飲んでます

すびくねえ 骨身に染みる 隙間風すきま

すびくねえ 湯たんぽ抱いて 膝抱いて

図太さが あがんならんば 出世せん

図太さが 処としろ構かまわず 高いびき

滑すべくつて 膝ひざんかつぷ 擦すり剥みいた

ズボン丈 いち切る方が 長ながこなかか (丈詰め)

スマートホン 指ゆびに唾つば付け 捲めくりよる (癖)

スマホなぞ 持たんシンプル イズベスト

スマホには 要らん機能の 多う過ぎる

澄み切つて 邪よこしま気の欠片かけらも ない瞳

住めば都 買いたか物も ありもせん

座るにも 立つにもよいしょ 手で支え (四足歩行)

ずん垂たれて まちつたズボンな 引き上げる (腰パン)

済すんません 頭あたま下くだぐれば 済すむ話

済すんません ちと冗談すの きつ過ぎた

請求書 転居てんこ先ままで 追おうてきた

正座して 痺しびんの切きれて 立ちきらん

税と 息引いきひつきつて 老い迫る

贅ぜい沢たくつか 大金持おほいちでばしあるか

贅ぜい沢たくつか 買かい物もの控ひかえ 辛しん抱ぶする (贅ぜい沢たく税)

贅ぜい沢たくつか 刺身さしみにせんと 喰くわん猫

生命いのちは 潮うしほの満みち引き 神業かみやまか

せかせかと 働はたらき尽つくめ 後あとがない

せからしか 俺おれに叶あえば 掛かかつてけ

せからしか 来こんなら来こんで 徒と然ぜん無なか 潮騒うしほな 31

せからしか たったぎやしこば 貰もらうとに

せからしか 歯かぎしりする歯 すぐ替かえろ

せからしか ばつて居ゐらんば 徒と然ぜんなか

赤飯あかひの 移うつりに返かえす マツチ箱

赤飯あかひの 移うつりにや何なにば 返かえそうろ

セキュリティー 盗ぬすらるるもんな ありもせん

セキュリティー 油断ゆだんならん 妻つまの口

世間よこしま体てい 次第ついでに腹はらが 目め立ち出です (未いま婚こんの母)

世間よこしま並ならみ 贅ぜい沢たく言いえば きんのなか

世間よこしま並ならみ 鳴なかず飛と飛ばばずの 半はん世紀

世間よこしま並ならみ ほめられもせず 憎にくまれず

世間よこしまの目 スキャンダラスな ことが好き

せしきやあで 立ち話はなしどま しちやおれん

せしきやあで 一人暮ひとりらしは やるせなか

せしこうて 飯いの支し度が やおいかん

世知せち辛がらさ 生き馬うまの目めにも ゴーグルを

世知せち辛がらさ 山里やまにや無なか 辛からさかも

世知せち辛がらさ 油断ゆだんも隙すきも ならん娑婆しやば ネット句会くご1月

急勝きゅうちで 早物はやもの買かうて 損しんばかり

咳せきつ込こうで 言いい訳わけすつで じきばるる

咳せきつ込こうで 満更まんごウソうそじゃ なかごたる

節電せつでんの ポスター照てらす 投光器とうこうき

節分せつぶんの 鬼おには裸はだかじゃ 風邪かぜ引ひくぞ

節分せつぶんの 豆まめはツマミに もつてこい

節約を 大々的に 呼び掛くる
銭や要らん 別れてくれる だけでよか
銭や持たん 給料日まで ツケとつて
銭や持たん 寒さが一入 五体染みる
セミの声 いやが上にも 暑くなる
競り合うて 三番までなら 良かこてしゅ
競り合うて 常の稽古が 物言うた
世話要らん ああだが先に 逝きなつせ
世話要らん 医者も坊主も 友が居る
せわしいこつ 年取る前に 掛け取りも
せわしいこつ 遣りつばなしの 多過ぎる
忙しなか 朝茶も飲まず 果行かす
忙しなか 足手纏になる子猫
忙しなか 飯は噛み噛み 仕事場へ
世話焼あて 娘が時にや 来て呉るる
世話やなつた 親の恩より 義理の恩 (恩返し)
僭越が 乾杯待たせ まだ喋る (早よせー)
僭越なる 長か挨拶あ 止めつくれ (下手の長談義)
全壊で 瓦礫の中を 這うて出た ネット句会6月
全壊で 怪我しただけで 助かった
せんが増し 気済みのせんば 為直さす
洗車すりや 黄砂混じりの 雨の降る
銭じゃなか 言う奴ア皆 分限者どん (金が物言う)
先達の 遍路指南に 絆されて
銭ほどき 食うていくしこ かつつかつ (貧困)

専門家 操作ミスでは 無かるもん
川柳が すぐ閃かす オジンギヤグ
川柳の たあだ字数 合わすだけ
センリヨウも マンリヨウもある 荒ら屋に
総入れ歯 チュウしゅうにも 不塩梅
総入れ歯 漬けもん噛む音 恨めしか
総入れ歯 笑いすぎたりや うっぱずれ
造花上げ 足が遠のく 墓参り
そうじやろう 盆正月で 昇級し
総スカン 地震雷 家事育児
そうにやええ 自給自足で いい空気
そうにやええ 旅行三昧 ピンコロリ
そうはいかん 税金だから 無駄使い
そうはいかん まだまだ親の 目の黒か
そうはいかん 利権の香り 天下り
そうにや良か 舶来品ちゆ 自慢さす
ソーラーに 電力会社の 暗雲が
不景気で 両手を挙げた 招き猫
総理つちや アイムソーリじゃ 済まされん
そうりやウソ 美人薄命 私や九十 (♪命短し恋せよオトメ)
そうりや見ろ 親のしたごつ 子のしよる (遺伝)
そうりや見ろ 天に唾すりや 降り掛かる
そうりや見ろ 他人への批判 吾がに向き
そうりや良か 社長のキープ 飲みよらす
そこがおばさん 聞きもせんこと 喋りだす

そこがおばさん 試食品だけ 食いあさり
そこがおばさん 知らん振りして 排気ガス
そこがおばさん 特売場の つかみどり
そこがおばさん 夕飯分に 試食さす
そそめいて 内緒話は 嫌な感じ
育ち盛り 食うしこ食うて 肥えもせん
育ち盛り 三人前を たいらげる
育ち盛り 履かれん靴ば 捨ても得ず
育ち盛り ぶかぶかの服 着せとらず
育ったね かるうて 抱いて 手を引いて (三兄弟)
ぞっとして 夢の吊り橋 後退り
ぞっとする アオダイショウが 絡み合い
ぞっとする 一便後が 墜落し
ぞっとする スカイツリーの ガラス床
ぞっとする 腸掴み そ引きだし
ぞっとする 避難してから 火砕流
卒業式 我が師の恩は 忘れない
袖の下 地獄の沙汰に 効くどうか (金次第)
その他いろいろ 選り取り見取り 食べまくり
その他いろいろ チョイスするのは 好き勝手
その時は とぼけて急場 凌ぎよる
その筈が 結婚指輪 メッキ剥げ
その筈が 新婚旅行 日帰りに
その筈が ダイヤモンドは 不相応
その筈が ニューヨーク行きが 入浴に

その早さ 一つ言うなら 十返す
そのまんま そがんあんたが 俺や好きぞ
側にきて 声も掛けずに 果行かす
側にきて 選挙前だけ 握手さす
側にきて そつと手渡す 請求書
素振り無か 何時だ結婚 すつちやいろ
空と海 境界線の 青と藍
空模様 まだ爆竹は 鳴らんどか
そりが何 下馬評ちゆうは 当てならん
そりが何 自問自答で 切り抜ける
そりやいかん 折り入ってなる 来んちやよか
そりやすごか あの狭き門 通らした
そりやそうた できの悪かた お前似た
そりやでけん 親は看らんで 遺産分け
そりやでけん 市会議員が 滞納者
そりやでけん 政治資金で 飲みよらす
そりやよか 土産が先い 届えとる
それなりに 写るだけじゃ 私イヤ
それはよかつた 採用通知 貰たげな
それはよかつた 手術せんでも よかてたあ
それはよかつた 立派なもんば 下げとつた
揃たるば 填って飲うで 貰おうか
そわそわ もうは着替えて お披露目に ネット句会5月
そんなバカな 日本人を 標的に
そんなバカな 預金封鎖を する噂

そんな話 他人にやすんなて 言うたろが

退役し 納屋の留守番する案山子

ダイエット 七福神に 勧めめらす

大吉が 保証付きなる 良かばつて (当たるも八卦)

大吟醸 米寿に学ぶ 喜寿と古稀

たいしたもん ずつと無遅刻 無欠席

体脂肪 痩せる下着で みんぞ腫れ

大丈夫 堪忍袋 緒が丈夫

大丈夫 七福神な みなメタボ

退職し 今も身分は 妻の部下

退職し 貰ったものは 病気だけ

大切 虎の子までも 叩かせて ネット句会10月

大切 惨めな戦後 知らんどが

大の字が 川の字になり 今一字

大の字の 妻に布団も もぎ取られ

大の字の 妻の隣に 一文字

台風が 土木業者を 潤わせ

台風が また百姓が 泣かされる

台風の 来いどんすれば 困ったもん (進路予想)

大役は 俺の肩には 重過ぎた

太陽光 タダで発電 銭儲 (投資)

ダイレクトメール どこで住所の 知れたつか

ダイレクトメール 封も切らんで ゴミ箱へ

耐え切らん 減量せんと 治りやせん
絶え切らん 堪えてばっかり おらるるか

耐えとつた 冷や飯食いちや 夢のある

高ざるき しがん遠まで はち来とる

高過ぎる 時季物食うて いっちよこう

高望み 選びに選んで 行き損ね

宝くじ のさらん人で 支えとる

炊き立ての おかず要らない 米ん飯

宅配の リンゴの箱で 米送る (故郷便)

巧技 そつの無かごて 使い切り

巧技 継ぎ目はどこに あっちやいろ

巧技 難なく修理 やつてのけ

巧技 ほんに良か手ば もつとらす

筍が 猪からの お裾分け

筍の 一斉に出て 貰い物

高こちいた 慣れんことした ばつかりに
出し惜しみ 漉ためたつちや ちよろつと出 (頻尿症)

出すものは 舌出すとでも イヤちゆわす

叩かれて 布団にや罪は 無かろうで

豊替え 隣や何ば さすもねろ

駄々をこね 考えさせて 根くらべ

駄々をこね 今度だけよで 味占める

脱オンナ 男子トイレに 駆け込ます

達者かね 何処もどがんも 無かちゆわす

達者かね まだ口だけは 負けとらん (口は早生まれ)

達者かね まだ晩酌に 二・三合

達者かばい 二次会場に はべり出て

達者して 飲まるるはざが よかつばな (百葉の長)

たつぷりと 掌が吸う 美容液

縦にや首 振らん家内と 扇風機 (家殿)

種無しのスイカの種は あつちやるか (コルヒチン)

種の無か ブドウの種は 何処も無か (ジベレリン)

種蒔いて よか塩梅に 夕立が

楽しかね 同級生が いっちよか

頼み事 妻の鼻歌 今が良か (ご機嫌さん)

頼み事 やっぱ手ぶらじゃ 行きにつか

頼もしさ 家業継がせて よか如る ネット句会12月

頼もしさ 日本選手の 二十歳代

頼もしさ 任かせてもよか 仕事ぶり

煙草にしゅう 日の長うして 腰延ばし

煙草飲み 肩身の狭か 納税者

旅先で 家にある物ナ 買いなすな (ツママツ)

旅好きよ あの世だけには 逝くみやあぞ (ミステリーツアー)

旅前夜 あれもこれもと 詰め捲り

旅に出る しこうすつとに 草臥れた

魂消った 起きたりや外は 銀世界

魂消った お産してもう歩きよる

魂消った 術後間も無う 巡礼に

魂消った 曾婆さんに なったげな

魂消った 便座の蓋の わがで開く

魂消った 惚けちやおらん 銭勘定

魂消たぞ あん年でつちや こん色気 (冥土サロン)

魂消たぞ 楽譜は脳の 中にある (辻井 伸行)

魂消たぞ ムカゼじやなかか 着け睫毛

騙された あがん若して 子持ちてた

騙された 有り金全部 振り込うだ

騙された 骨董品を 捨ても得ず

騙された てつきり釣った 鯛ともた (買うとつと)

騙された 見掛けはびしやり 紛いもん

溜まつとる 銭なるよかて 体脂肪 (BMI)

黙つとれ 打ちばしせんば 口や勝たん (力づく)

黙つとれ 講師の声が 聞き取れん

たまに来る 嫁じよはまるで お客人

黙りこくつて 頓着せんで いっちよこだ

黙りこくつて 余程のこつじや 腹搔かん

為えならん くつ喋りが 加勢さす

為えならん 為いも得んくせ 引き受けて (無益無害)

ためになる そうだったのか 初耳ぞ

ためになる 知識経験 技術力

ダメよダメ 飲酒運転 事故の元 (酒の用心)

だらしなか 戦争だけは しちやならん

だらしなか 女御に金ば 出さすんな

だらしなか ちつと気張つて ヘコタルル

だらしなか 脱いだ着物な 片付けろ

足らん足らん 余り過ぎより そつが無か

足らん足らん 手は借つても 銭や借るな

足るを知る うつすらとでん あればよか (吾唯知足)

足るを知る 起きて半畳 寝て一畳
弛止に 猪口二三杯 あれば良か

たわい無か 頭下げれば 済むもんば

たわい無か 伊達には場数 踏んどらん

断捨離に 踏ん切りつけた 大地震

断捨離は 思い出の品 邪魔しよる

断捨離は 体脂肪なら 捨ててよか

断捨離は 勿体のうて お断り

誕生日 有り難くない 歳貰う

誕生日 多か蝋燭 消しきらん

誕生日 パンピーばかりでもなかが

单身赴任 新幹線で 通い妻

段々と 美味い爛酒 寒の夜

段々と 炬燵がみかん 消費増し

段々と 近くの国と 近くなり

段々と 迫る水嵩 身が疎み

段々と 年の瀬迫り 障子貼る

段々と 寄る年波に 身を委ね

だんだんな ハシゴの相手 して貰て

だんだんな 世話役さんのお陰ばな

知恵付けて 遣った積もりが 見透かされ

近まって 医者も僧侶も 仏顔

近まって 般若心経 習いよる (信仰心)

近まって 迎えが来ても 断れぞ (♪そこに私は居ません)

近うなった あの世も寺も 小便も (不眠山頻尿寺)

近う寄り 耳が聞こえん 目が霞む

遅刻して 戻る時間にや まっ先に (時は金なり)

縮こまり 亀が雁首 引っ込む

縮こまり 猫と一緒に 炬燵番

父の日に 家族は誰も 無関心

父の日の 大吟醸の その旨さ

ちとづつ 配られた水 使いよる

ちとづつ 詰めるも一人 座らるる

ちとづつ おすそ分けさす 貰い物

ちとづつ 思し召しより 米ん飯

ちとほの字 ママの陽気に 俺陰気

千鳥足 後ん一杯が 多過ぎた

千鳥足 裏戸を開けて 忍び足

血の付いた 包帯解いて 見ろちゆわす

着々と 進まぬ豊洲 水浸し

茶髪てや 何が流行か 黒がよか (黒髪)

ちゃん仕舞た 足で開くつと 見とらした

ちゃん仕舞た 至らんことして 罰被り

ちゃん仕舞た 俺の持ち歌 唄われた

ちゃん仕舞た 車代まで きゃあ飲うだ

ちゃん仕舞た 骨頭の壺 ハチ割った

ちゃん仕舞た 食後の菓 きゃー忘れ

ちゃん仕舞た 丁度んところ 子が見とる

ちゃん仕舞た 唾付けとけばよかつたて (先取りされた)

ちゃん仕舞た 特等席は 予約済み
ちゃん仕舞た バスが定時に 果行た
ちゃん仕舞た 太か魚ば いっちゃった
ちゃんちやらおかしい 俺の地盤で 立候補
ちゃんちやらおかしい 十年早い お弟子取り
ちゃん付けで 何時まで呼ぶか 六十ぞ
忠孝の 尾を振る犬は 叩かれん (忠犬ハチ公)
駐車場 車も俺も 前向きに
中の下で 種も仕掛けも なか暮らし
ちゆうりこり 堅かもんな 剥けもさん
ちゆうりこり 辺野古埋め立て 捗らん
注意して 杖で探つて 足でさで
注意して バックしますと 言う車
釣果あり 一杯飲もうて せしかわす
銚子空 ほろ酔い気色 良か調子
丁度良か 遮光カーテン ニガゴウリ
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か 遮光カーテン ニガゴウリ
丁度良か ダイエットした 甲斐のあり
丁度良か ちった怪我も 良か試練
丁度良か 似合うた鍋に 似合うた蓋
丁度んとき 子どもに見られ バツ悪い
丁度んとき 電話にや出んで いっちよこう
弔問の 多さ故人の 仁徳ぞ
チョコレート バレンタインが 太らす

ちよつと待て 朝ドラ見んと 手に着かん
ちよつと待て 酒も肴も 残つとる
ちよつと待て 手が外されん 仕込み中
ちよつと待て ナデシコジャパン よかところ
ちんちろみや おせちに掃除 餅飾り (迎春)
ちんちろみや 打つて走つて 掻き回す
費えーか 使い切らんば 減らさるる (土木予算)
通勤は 運転手付き 定期バス
杖代わり 降らんちや傘は 必需品 (雨に歩けば…)
使い捨て 主従関係 其れ迄よ
月明かり トラクターが まだ気張る
月の出ば 待つちゆてあんひと 待つとつと
つくづくと 妻の手見れば 胸痛む
つくづくと 寝顔覗けば 生き仏
作り過ぎ 二日も同じ 菜ばかり
ツケのきく ママの酌じゃ 断れん
釣った魚 餌やりついに 飼い慣らし
突つ立って 足でオンする 扇風機
包み銭 持たん同志で つんなもだ
勤め上げ 時計に磨 用無しに
勤め上げ 終日のたり のたりばな
角隠し ウチの女房に 被せたか (爪を隠す)
椿落つ 母の臨終 やも知れん
椿落つ 不吉な予感 なまんだぶ
つばくらめ ゆう忘れでにや 里帰り

つべこべ言うて しようなかとが 腹いっぺ

つべこべ言うて 面倒だから 頼まれん

妻降りて お疲れ様と ナビが言う

つまづいて 三本足に 増やさした

つまづいて 膝坊さんに けがなして

つまづいて 膝坊さんは 痣だらけ

妻の後 三歩下がって ついて行く (師の陰を踏まず)

妻の居て 生き存える 有り難さ

妻の勘 好みの爛で つい過ぎる

妻はバラ 花は散ったが トゲはある (綺麗か花)

ツマミには 節分の豆 再利用 (Reuse)

艶やかに 髪も心も あなた色

梅雨明けは 灼熱地獄 だけ逃ぎゆか

梅雨は嫌 粘とつとは 露知らず

梅雨は嫌 飲むこと以外 仕事なし

強い人 猫は何でも 知っている

吊り橋は 嬢が渡った 後渡る (露払い)

連れ合いが 長年経てば 連れ無いに

連れ込むな 私や急には 泊まられん (車は急に止まれない)

連れ添えば ありこりそりで 通じつと (阿吽の呼吸)

悪阻かも どうやらできた そうにある

ツンデレの おろみぞもあり みぞもあり

つんのうで お寺詣りに きゃあ行こだ

つんのうで そうよで二次会 果行だ

つんぶるえ 学生服は 泥だらけ

つん燃やた コピー焼いてと 言うたのに

亭主留守 良かちようらいで 昼寝さす

程度もん 薬も過ぎれば 毒になる (過剰投薬)

程度の無か 諭吉さんたちや 急ぎ足 (お足)

出来したぞ 良かっぱ下げて 産まれとる (初子)

出来損ね 親の躰が なつとらん

出来不出来 同じ腹から 産んだとに

出来不出来 よか塩梅に 匙加減

手際良か ちよこつと修理 してやらす

手際良か ちよこつと修理 してやらす

手際良か 鉄一ちよで 食ていける

手際よさ 若つかときから し慣れとる

てげてげて 奢らず媚びず 控え目に

てげてげて 今日を終えれば そつで良し

てげてげて 妥協せんば もねならん

てげてげて よかことにする 歳になり

てげてげて 欲せず施し 人ん為 (喜捨・寄進)

手ごわいぞう 小兵力士と 侮るな

手ごわいぞう 百戦錬磨の 業師げな

手為醤油 手前味噌じゃか こだわりで

手為醤油 余所の味にや 引け取らん (家伝)

デジカメは 何を喰うとか 孫に聞く (銭を喰う)

出しゃばって 赤恥搔いて 引き合わん

手だてなか 阿蘇の噴火で 灰が降る

鉄人も 皿洗いから 始めとる

てっぺん 下界は何を しよるやら ネット句会5月

てっぺん 強かはずたい 風当たり

手詰まりで 自国防衛 支援国

手詰まりで 歴史認識 繰り返し

出ておいで 雲間に隠れた お月様

出ておいで 手乗り文鳥 ご飯だよ

手内職 遊びほどこきで 捗らん

手にや負えん イスラム国の テロてるん (何じゃかんじや)

手の掛かる もう限界ぞ 孫の守り

デパ地下で 夕食代わり 試食する

手八丁 何ばさせても 手際よか

手袋の 左手ばかり 残つとる (裏返せ)

手袋の 右手ばかり 売ってくれ

手弁当 向こう糞では 割合わん

デラックス 金の草鞋の 披露宴 ネット句会6月

寺普請 寄付て聞いたら 寄付かん (喜捨せろ)

寺普請 そうそう寄付も 貰えみやあ

寺普請 被災檀家は それだんか

寺詣り 年寄りばっかり つんなもた

デリケート 乙女の心にもラップ

デリケート そこは優しく 治療して

出る杭は打たれ 出過ぎりや打ち切らん

てれつとして よか女御ばし 居らるかい

テレビ取材 厚かましさも 程がある (お構い下だされ)

テレビにも 声援贈り 拍手して

手を合わせ 捨てる物にも 感謝して

伝供取り 手から手渡し 瓦揚げ

Deng 熱 感染すれば 大事ぞ (蚊一かんちーた)

天災に 為す術もなく 泣き寝入り

電池切れ 体内備蓄 使い切り (エネルギー補給)

田地持ち 有ればあるもん 草の種

天の恵み 都会じゃ飲めん 水のある

電話帳 昔の名前で 三年忌

電話ばい 丁度ん時い 出じいつ置け (取込中)

ドア越しに お帰りなさい 午前様

退いてみる 俺がすつとば ゆう見とけ

どい瘦せん 口ほど動けば じき瘦する (運動不足)

動悸打つ 恋の鼓動と ちと違う

同期会 会いたかったぞ 久し振り

同期会 今亡き恩師 忍びつつ

同期会 今なる言いきる 好きじゃった

同期会 俺もワリも 無礼講

同期会 恩師はそうよ 旅立たれ

同期会 喋り足らんし 飲み足らん

同期会 体調不良で 来んとちゆた

同期会 鷹ばし産んだか 孫自慢

同期会 亭主のこたあ きやあ忘れ

同期会 何てや喜寿まで 待てんてや

同級生 声聞くだけで わかったぞ

同級生 だが一番 早よもろた

道具箱 家族支えた 飯の種 熊日 6/30

道具箱 匠の技の 詰まっとる

父さんの 経営杜撰 倒産か

湯治旅 よかたやつぱり 家ん風呂

どうしたもんか 動き出したら 考ゆう ネット句会2月

どうしたもんか 先ずは行動 後は運

どうしてん 俺が仕掛けにや 喰い付かん

どうしゆうに 過ぎたこたあ あきらめろ

どうしゆうに 水飲んだっちゃ 太る質

どうしゆうろ 活断層の 真上てな

どうしゆうろ 貯金なかつとしゅ おろすだけ

どうするか 歳に免じて 堪えてよ

同窓会 天草弁の 懐かつさあ

同窓会 喋ってばかり 箸や休み

同窓会 成績順が 替わっとる

同窓会 遠かところから おいでたなあ

同窓会 何着て行こうか 迷うたと

同窓会 昔話に 花が咲き

堂々と 妻の前では いい格好

遠うなつた 耳も色気も ふる里も

遠退いて 口にはチャック 目には蓋

遠退いて どなた様かと 言いくさる

遠退いて 墓の掃除は 人頼み

遠退いて まあだボトルは 有りいろう

遠退いて もつぱら妻と 差しで飲む

当面は 家内企業で 細々と

当面は 揃うた者で いっちゅうか

とおり道 イヤな沖南風 まっぼうし

とおり道 カモの親子が 渡りきり 熊日 4/27

どうろころ 食うていくしこ あればよか

どうろころ 飲みもえんば 貯めもえん

どうろころ 飲むしこあれば そつでよか

どきどきすつ 美人看護師 脈をとる

時は金 チンして済ます 夕ご飯

どぎゃんかな 何時だ飲む如て なつどかい

特上と さらり言う妻 太っ腹

ドクダミが 狭い畑を 占領し

独壇場 マイク握って 離さつさん

毒舌も 君麻呂だけん 許さるる

どけ行こが 子供が居らんば 安気なもん

どこでつちや 佐伊津弁な じきわかる

どこどこば 銭な巡って おつとじやい (天下の回り物)

どこなつと 出掛けてみるか よか日和

心太 細い天草 心太

どさくさで わーが領土に きゃーしなし

年ア幾つか 選り好みどま しとられん

年ア幾つか 図体ばかり 太うなり

年ア幾つか まだでん親の 脛かじる

年ア幾つか ママて言うたりや どやされた

歳訊かれ その場その場で 満・数え

どしこでん 隠し財産 パナマげな

歳じゃある 腰やいっちえて 踊りよる (いっちよけ)

歳だけん そんな口紅は 赤過ぎる

歳だけん 何が何でも 派手じやろう

歳も歳 医者と仲良し なるばかり

歳も歳 これから先は 遠慮しゆう

歳やとらん 色気と食い気と 遊び気と (元氣澁刺)

図書館に 行き先告げて パチンコ屋 (想定内)

歳寄った 言いたかことも 明日にしゆう (喉元過ぎれば)

年寄りを 笑うちやならん 行く道じや

ど素人 三味を片手に クシヤミする (遊興三味)

ドス利かせ サングラス掛け 鏡見る

徒然なか 無縁仏に 花手向け

とつけむにや 爺が太刀打ち でくるかい (冷水)

とつけむにや サンプルとにや えりや違い

とつけむにや 歳の差婚も 親子ほど

とつけむにや まあだ十年 早過ぎる

とつけむにや 持ちもせんくせ 高級車 (不相応)

どっこいしよ 気合い入れ入れ 立ち上がる

どっこいしよ 尻が重くて 立てません

どっこいしよ 立つも座るも 手をついて

どっこいしよ 孫が気合いで 加勢する

どっこいしよ よいしよこらしよで 気張りましよ

どっちじやい 貰ってくれた 来てやった (してやった)

ドットコム 何処が混むとか 聞いてみる

とつとつと とつとこれ座ろ ドジ同士

とつとつと 孫の土産に きやあくりゆう

とても無理 清濁飲める 器には

とつとこれけ 昔なじみが かたまつて

となり村 案山子が過疎化 カバーする

となり村 案山子も村の 賑わいに

となり村 七割方が 高齢者

跳び出すな 車は急にや 止まらない

とびついて 安す物買いの 銭打捨て

飛び飛びに 興味ある記事 拾い読み

飛び飛びに 密生苗は 間引きさす

途方も無か 出世したもん 親に似ず

どぼくれた 鉛筆削る 肥後の守

とぼけても駄目 証拠はちやんと 掴んどる

とぼけても駄目 顔にウソだと 書いてある

泊まらんか 積もる話して 夜も更けた

泊まらんか 待つとる者も 居らんどが

泊まりがけ 主婦もたまには 小休止

泊まりがけ ペット可の宿 探し中

泊まりがけ ペットの餌は 二日分

朋来たる 酒も肴も 揃えとる (論語)

共白髪 誓うた妻が 白髪染め

共白髪 なんだイヤばいと 妻茶髪 (嫌よイヤイヤ)

どの猫の 図々しさも 程がある
 寅年に 虎の子までも 少子化か
 取り敢えず ナマを一杯 チュウを呉れ (中：焼酎)
 どりが良か あなたの色に 染めてみて
 取り逃ぎやた 掴うだタコは 頭だけ
 取り巻きの 猫が手招く 島の客
 どりもこりも 塗ったくりよる 試供品
 取るに足らん 内輪喧嘩は 犬も食わん
 取るに足らん 内部抗争 お勝手に
 穫れ過ぎて 銭がたなかもね 糞重か (価格暴落)
 泥だらけ 車はたあだ 乗るばかり
 どんこんならん 足腰終に ガタのきた
 どんこんならん ブルーシートに 台風が
 どんと来い 何でもござれ 資格持ち
 どんと来い 町の歴史は 俺に聞け
 どん腹は しゃっしゃっとして 高ざるき
 どんぴしやり こうとか柄の 有りいろいろ
 どんぴしやり 似合うた鍋に 似合うた蓋
 なあおまえ 先に逝たとき ぼちぼちけ (先に逝ってはいけない)
 なある程 相手が一枚 上だった
 なある程 言われてみれば そがんじやる
 なある程 言われん訳が 判ったぞ (疾しかこつが)
 なある程 言わんはずたい 照れ臭しや
 なある程 男に解らん こともある
 なある程 親に言われん 訳がある

なある程 親の言うごつ せにやいかん
 なある程 俺の仕掛けじや 釣れんはず NHK
 なある程 柿と柿は 似て非なり 2/23
 なある程 口裏合わせ したったな
 なある程 事は解決 したるふう
 なある程 こりや袖下 貫るとるな
 なある程 筋書通り じゃったばい (とんとん拍子)
 なある程 銭がたあつた 長ごもてた
 なある程 どうも様子が 変だった (想定内)
 なある程 並んだ甲斐が あつたばい (行列のできる店)
 なある程 似合うた鍋も 蓋もある
 なある程 寄っ付かん筈 寄付貰い
 なある程 落語のオチは 唸らせる
 なあんでか 惚けると惚れる 字は同じ (惚けとらん)
 内緒たい 嬢に知るれば 大喧嘩
 長生きし 曾孫の面が 見ゆう如たる
 長生きに 溜息漏らす 罰被り (遺産分け)
 長い夜に 一緒に欠伸 老夫婦
 鳴かず飛ばず 爪は隠した ままじやつた
 なかなか減らん 借りる相手を 間違うた
 なかなか減らん 払いに行つて またツケか 熊日
 なかなか減らん 水を飲んでも 肥るたち 7/14
 鳴き止まん 耳の中には 蝉がおる
 無くならん 娑婆の諍い 扱き下ろし
 無くならん ちゃんと蓄え したつたつ

無くならん 埋蔵金な うんとある
長ご生きる 積もりで買った 高級車 (遺産相続)
長ごうなか 生きとるささは 楽しもだ
長ご長ごう 苦虫嚙うで 齒の抜けた
長ご短こ 中々無かな 揃たつは
長ご保てた 高つかがたあつた ランドセル
長ご保てん 無塩な小切つて じき喰わにや
情けなか 男やもめにや 蛆がわく
情けなか 針のみんなぞが 見えんとぞ (針穴)
情けなか ヤマト横綱 居らんとか
無し無しの 銭ば盗人に 押つ盗られ
茄子の花 千に一つの 無駄もなか
菜種梅雨 なわしたチヨッキ 出して着る
夏が来りや やつぱり冬が よかち言う
懐かつさ 小学唱歌の 大合唱
成つたごつ 栄枯盛衰 世の習い
納豆喰う 身体に良いと 納得し
成つとらん スマホ見い見い 聞く訓辞
夏遍路 うがい菓の 麦般若
夏休み 子どんが声の とんとせん
夏休み 孫が曾孫を 引き連れて
何いならん 吾がで決めとる 第三者
何食わぬ顔 ニンニク食うて よう喋る
何食わぬ顔 眼の縁や紅う なつとらす
何様か 柏手じゃろか 合掌か

何様か 何さま伸すの 横着つか
何はさておき 家族揃つて お正月
何はさておき 最低限の 衣食住
生臭気 酒の肴に ひと小切り
南無大師 同行二人で 遍路する
成る程ね 説得力の ある話
慣れたもん イビキ齒ざしり 気にならん
慣れとらす 話し上手で 聞き上手
成れば成る 辛抱する気に 金がる (金の成る木)
難儀して 子は大学に 遊ばせて
何気なし 額縁裏に 手を伸ばし
何気なし 風邪引いとつて 風呂入る
何気なし 襖開けたりや 着替え中
何気なし 額縁裏に 手を伸ばし
何気なし 風邪引いとつて 風呂入る
何事や いった集つて 見たむなか
何しゆうに 子に残そうて せんちやよか
何しゆうに 黄泉で使えん 銭貯めて (地獄の沙汰も金次第)
何ちゆう事ツか 熊本城も うつ崩えて
何ちゆう事ツか のらりくらの 言い逃れ
何てさな 聞こえん振りで 地獄耳
何てやあ 俺がすつとに ケチ付くる (文句有りません)
何となく 嫌な予感が しょつたと
何となく 胡散臭い 儲け口
何となく 大学までは 出たけれど

何となく 頼りなさそう あのス振そぶり
何となく テロの標的 ジャパニーズ ネット句会2月

何となく B型 そうな マイペース

何となく 不安が過よぎる 胸騒むすぎ

何となく 結ばれそうな 赤い糸

何々なんなん 買い物すつと メモしとく

何遍も 枯らす鉢植え つい買うて

何遍も こそくりながら 使いよる

何も彼も 親なればこそ 出来でる世話

何も彼も 為し得んこつあ 神頼み

何も彼も 専業主婦も やおいかん

何も無か 今日どま早う 寝てみゆうか

賑にぎやかさ 柏手響かしわてびびく 初詣はつもうで

賑にぎやかさ 勝った勝ったで 舞い上がり

賑にぎやかさ 特売場に 人の波 (福袋)

逃げまくり 頭半分 刈り残し (バリカン)

逃げまくり 痛いたか豆粒 鬼は外

逃げまくり 犯人逮捕 それまでよ

逃げられん ここは男が 引き受けた

逃げられん 蒔いた種は 刈り取らじや

にじり寄り やっぱ美人の 側がええ

にじり寄り 利権の甘い いい香り

二代目も 経営不振 父さん似 (倒産に)

日没に 八十八の 遍路終へんろおえ

日曜日 まあだ寝足たらん そうなもん

二の膳付き 後の魂胆 見え隠れ

二の膳付き 一度で良かが お招よばれに

二の膳つき おもてなしなら 遠慮無く

にぶい人 乙女心を 察してよ 熊日3/7

にぶか人 抓つかったのに ああ痛か (声出さすな)

日本人 標的にする テロリスト

入所後は 老いらくの恋が 花盛り (禁じられた遊び)

似れば似る 親に似ん子の おるもんか

似れば似る 五百羅漢に 俺の顔

人気者 面つらが物言う 無理が利きく

ニンニクは 口にや美味かばっ 臭ういね

ぬいぐるみ どっちが抱っこしているの

ぬいぐるみ ふんわり感に 癒される

抜かりは無か 領土交渉 見合う紐ひも

抜かりは無か 吾が貰もらい分 握にぎつとる

脱ぎ捨てて 朝の寒さは 嘘うそん如ごとて

温ぬくうして ひつちいてどま 寝られんぞ

温ぬくめて喰くう 昨夜よんべんカレーの 残りもん

温ぬくもつて 冷さめた湯たんぽ 邪魔じゃまになる

抜け替わり 出番待つとる 永久歯

抜け出せん 淡島さんの 薄笑い

塗ぬったくり 試供品な 片っ端

暖ぬるみだし 神経痛も 大人しか

暖ぬるみだし 梅花こぼるる 迎え梅雨

願ねがいごと 神仏とは つきあえん

願いごと 神も仏も そつぽ向き

願いごと 努力もせんで 叶おうに

願わくは 感謝の心と 佛心と

願わくば 患わでにゃ ピンころり (安楽死)

寝苦しか 嬢の寝相は 見苦しか

猫かぶり 騙され方も 知っちゃおる

寝ころんで 梅雨の明けんと 気の塞ぐ

寝ころんで 猫も退屈 しとるふう

猫だまし 張り手搦ち上げ 横綱か

猫ん如て 勝手気儘に 過ごしたか

猫ん如て 自由気儘に 居場所替え

寝静まり これ仕事 抄が行く 熊日 3/18

寝静まり 振り子の音に 目が冴える

寝静まり 夜回りの声 恙なく

寝たつきり 悠々自適か 高いびき (まだ壮健)

熱帯夜 節電よりか 吾が身体

熱帯夜 寝ゴザが何処か あった筈

熱帯夜 腹の中から 冷やしよる

ネット野次 見て見ん振りが できんとか

寝とつても 妻は領土を 占領し

ねぶうなつた お休みなさい 安らかに (安眠枕)

寝坊して 事故渋滞の 所為にする

寝坊して 生活リズム きゃあ狂う

ねまつとる 昨夜の酒が 祟つとる

眠られん 医者に行くまで 昼寝する ネット句会8月

眠りこけ 夜半の雷 知らじやつた

眠れない 余りに羊 多過ぎる 第6回ねむり川柳

眠れない とうとイビキに 逃げ出あた

眠れない 羊が人を 数えよる

寝る間も惜しみ 生活の足し 手内職

寝る間も惜しみ 大学受験 パスさした

音を上げて きつか仕事に 耐えきらん

音を上げて もう加勢には 来んだらう 熊日 5/9

年賀状 達者うしとれば そつでよか

年賀状 年ごとに減る 同期生

年賀状 孫甥姪が 増えたもん

年金様々 肩叩く孫 有り難や (金の世の中)

年金な 吾がおる使うて 子に孫に (子煩悩)

ねんぞくな 稼ぎも得んで 高級車

ねんぞくな 下だり向きは まだ早か

ねんぞくな 師匠の恩な きゃあ忘れ

年度末 何処も彼処も 掘り返し

年度末 犬もさるけば 工事中

農機具の ローン払いに 出稼ぎに

農作業 一人でせんちや 加勢すつて

飲うで食て 酔うて唄うて 素寒貧

飲うでみゆう 体に良かと テレシヨップ

脳天気 軽口叩く 会議場
無うなつた 欲も得も 心配も (無欲無心)

無うならん いくら引いても また生ゆる
のうのうと 借りたお金も 返えさんで
のうのうと 食ちや寝食ちや寝の 氣儘猫
のうのうと シルバー席に ガングロが
のうのうと 人の手柄は 吾が物に
のうのうと また尻拭い させおつて
ノータリン 同じ間違い またさした
ノータリン 本を貸す馬鹿 返す馬鹿 (お貸し下され)
退き給え 下んだり向きは まだ早か
退き給え 世代交代 妨ぐる
退き給え そこはシルバー 指定席
のけぞつて 誰も相手に して呉れん
残さんで 喰て仕舞わんば ねまるばい
残つとる いっときや古米 喰わんばん (保有米)
残つとる 飲み上げたろう 戻ろうだ
残りもん 勿体のうして 瘦せられん (食べ物大切に)
のさつとる 女ばかりか 苦勞にも
のさつとる 富豪でイケメン ババア抜き
のさつとる 主人と子にも 姑にも
のさつとる 晩酌だけは 欠かし無し
のさんぞう おろいかとこは よう似とる
のさんぞう 仕込み上げたら 辞めていく
のさんぞう 避難先まで 焼き出され
のさんばい 避難所暮らし 三年も
のすこつか 遺産は呉れろ 親は看ん

のすこつか 消費税の また上がる (駆け込み需要)
ノックする こがん時間に 誰つじやるか
延ばし延ばし とうと手遅れ だつたげな 熊日 6/4
延ばし延ばし もう催促も 嫌になる
伸び盛り 鴨居にお辞儀 せにやならん
伸び盛り つんつるてんの 服着とる
伸び盛り 縫い上げ解いた 形のある
伸び放題 髪の毛も髭も 生え被り
のほほんど 何時の間にもやら 日の暮れて
のほほんど 娑婆はそがんにや 甘うなか
飲み会と 言えば閃く 酒の菜
飲み会の 酒は飲んでも 飲まるんな (飲んだ酒に飲まれる)
飲み代は 昔や酒代 今薬代
飲み足らん 酒はまだかて 喚きよる
飲みなつせ 昔や徳利 今薬
飲みやえんと ひっくり返やて 返さした (下戸)
飲み屋発 飲酒運転 地獄行き (終点 地獄です)
飲み忘れ 残った薬 ゴミ箱に
乗り遅れ 極楽行きは 満員ぞ
乗り気満々 氣立ての良さに 惚れられた ネット句会3月
乗り気満々 見合い作戦 ツーショット
乗りたがる ハイブリッドと よか女御 (試乗)
乗り易か 人の煽てと 口車 (有頂天)
暖簾のゆ 二つに分けて ひとつ風呂
のん気な人 焦るみんなが お気の毒

のん気な人 空気読むのは 窮屈だ
のん気な人 死期を忘れて 百歳に
のん気な人 急いてへマした 奴笑う RKK 11月
のん気な人 そんなに急いて どこへ行く

飲んじゃ寝 喰うちや寝して また太る (ぐーたら)
飲んだるか 塵籠見たりや 飲うどつた
パーフェクト 世界の不思議 探し当て

倍返し エビを贈って 鯛貰う
倍返し 小言無視して 大事に

バイキング マナーは皿から こぼれよる (食い意地)

バイキング 勿体ないを 盛り込んで

バイキング 旨まかりそうで 取り過ぎる

廃校の 跡地に残る 金次郎 (勤勉の手本)

ハイそれまで 三人居ても 猿知恵か

ハイそれまで どうも勝ち目は なか如たる 熊日 3/16

ハイハイ 犬が這い方 教えよる

ハイハイ えらい気安う 引き受けた

ハイハイ どうせ私が しまえじやろ

ハイハイ 二度と浮気は しまっせん

ハイハイ 孫よ早よ立て 早よ歩け

ハイボール 好きな貴方が ダイスキー

ハイヤ節 踊ってハイヨ 元ハイヤ

入りきらん 器に合うたしこ貰え

入りきらん タダなら欲が 加勢さす

入りきらん 立ち見席でちゃ 仕方なか

入りきらん 服に合わせて ダイエット

蠅叩き 上にとまった 憎い蠅

這えば立て 立てば金喰い 虫となり

歯痒かね 日本横綱 居らんとか (国技かん?)

馬鹿たれが 来世もあたと 添うていう

馬鹿たれが 我が子思わん 親おらん (過保護)

扱らん 朝の段取り 拙かった

扱らん 遊びほどきの 手内職

扱らん 材料不足 手間不足

扱らん 夜鍋せんなら 間に合わん

扱らん 領土問題 戦後処理

馬鹿にして 先に生まれりや 先生か

歯が抜けて 「愛してる」とは 本心か

ばかばかしか ガソリン価格 税三つ

ばかばかしか 農機具代の 出稼ぎに

墓参り 造花供えて 年一度

破顔一笑 辛さきつきさも 吹き飛うだ

破顔一笑 美人じゃなが 飽きのこん

破顔一笑 美人じゃなが やっぱよか

馬鹿んごて 愛しとるてや 気味悪か (不言実行)

馬鹿んごて 飲んで知らんて あるもんか

馬鹿んごて 曲がつたこたあ しちやおらん

薄情か そがん子産った 覚や無か

薄情か よかときばかり 諂うて

薄氷 足を抱えて 渡りおる

薄氷 ミシツとヒビに 後退り

舶来も 安い時計も 五時は五時

半夏団子で 荒神さまに お持て成し

禿げてきた 惜しいこたした 白髪抜き

励まされ 立ち直らんで どうするか

励まそう 坊さん将に 修行中

励みよる 子育てよりも 子づくり

歯痒らしか 鹿が徒して 仕方無か (天草鹿)

歯痒らしか どりややってみる 俺がする

化けらした 若づくりしても この程度

箱根路を タスキ繫いで 走りぐら (箱根駅伝)

ばさらつか 側でにや仕事 できんばい

ハシゴ癖 昔や飲み屋 今病院

ハシゴ酒 三軒までは 覚えとる

バス時間 遅れてくれて だんだんな

バス旅行 降りるたんびに 土産買う

走りぐら 何時も後から 二三番

走りぐら まだ孫たちにや 負けとらん

恥ずかしか しがん土産じゃ 遣られんぞ

挟うでくれ 旅行に合わせ 初頭

パソコンで 綺麗に打って 誤字だらけ

パソコンな ちゅうりこうり 為いならん

パソコンを 筆字教えた 子に習う (老いては子に習い)

肌寒か 伊達の薄着で 風邪ひいた

パチンコで 損した時や 黙つとる

はつきりせえ 常々言うて 聞かせとる

ハックション 口より先に 股押さえ

ハックション パンツの紐を ばつ千切り

八卦良い 残った年も 来る年も (世界平和)

初参加 若輩たちに 丁寧語

抜歯して 酎で消毒 口濯ぐ

初スイカ 何人からも 叩かれて

歯つっこう とうと吾が歯は 無うなつた

果行た 台風一過 日本晴れ

抜擢も お偉いさんの 匙加減

初日の出 あれもこれもと 願い過ぎ

初日の出 お願いよりも 先ず感謝

初孫の エコー写真に どっちかな

初詣で 今年や宮ば 替えてみゆ (御利益)

初詣で 二千元がと 拝ん申す

初詣で 孫の分まで 頼ん申し

バツ悪か まさかの所で 出会せて

派手かろか 取っ替えひつ替え 胸に当て (品定め)

ばてぐるい 我慢しきらん 如てなつた

ばてぐるい 俎板の鯉 逃げられん

花植えて 後の管理は きやあ忘れ

花植えて 水やり忘れ また枯らし

花咲爺 死んで花実が 咲くもんか

花盛り どうか二三日 降りなすな

放し飼い ちった手綱の 緩め過ぎ

ハナシどん 嚙までにや飲うでくつちやべり (話：歯無し)

漬垂れて テカった袖で また拭う

バナナかな バナナばな んまかばな

離れ島 演歌流して 店の来る

花を撮る 十七・八に 目をつけて

歯の疼く なんなら酒で うがいせろ

歯の抜けて 流動食が よかごたる

母親の 遺影に今日も 声掛けて

母強し 命を掛けて 産み育て

母の味 妻が嫁御が 受け継いで

母の顔 何時もにっこり 穏やかに

母の字の 二つの点は おっぱいぞ

はひふへほ 二乗で笑え わっはっは (はは ほほ)

浜ん河原 アサリ漁って 自給食

刃向かえん やっぱ原発 稼働さす

歯向こうて どうせ勝たんた わかっとる

早アもん 抱いた子がもう抱いてきた 熊日 12/3

早アもん 曾爺さんに きゃあなつて

早仕舞い 遅い開店 効率化

早過ぎた もちった生きて 欲しかった

早寝遅起き オールナイトの 夢見とる ネット句会7月

早よせろ 遅い助けは 助からん

早よせんか そんならそうと 早よ言えよ

腹癒せに あらん方さん 道教え

腹一杯 アイスクリーム 別腹に

腹一杯 痩せる薬も 効き目無か

腹下し 梅エキス舐め 利いたふう

腹ごしらえ がまださんなら しこなさん

腹ごしらえ 夜なべしてでも 仕上げなん

腹ごなし 一汗かかにかや 飯やいけん

腹探り 出方次第で 引つ込む

腹損ね 得知れんもんば 食うでたあ

腹八分 解つちやいるが 手が伸びる

腹減った ある物なみんな たいらげた

腹減った 金が無い時や 武士の振り

腹減った 新陳代謝 フル稼働

腹減った 育ち盛りの 胃は二つ

腹減った 並うで待つちや 居りきらん

腹ん塞く 鯖の刺身に 当たらした

バリユウムも まあまあの味 飲み慣れて

春一番 吹きつらかして ゴミだらけ

払うても 払うても来る 請求書 (頭↑山火)

春うらら 桜も夜鍋せにやならん

春うらら 日向見つけて 猫昼寝

春たけなわ 花鳥風月 愛で一句

春たけなわ 心うきうき 気はそぞろ

春の夜の 儂き夢の 腕枕

春は朝 夏は夕暮れ 秋は夜

春よ来い 鼻歌も出る 早春賦そうしゅんぷ

晴れ姿 見せたかつたろ 亡き母に

晴れ間には 鉢花たちも 日向ボコ

掃はわいても 溜はまれば溜はまる 銀杏いちょうの葉

蜜はちカラー 高下こうげ駄履だりいて 破やぶれ帽子ぼうし (昭和天高生)

万歳ばんざいか 降こう参さんなのか はつきりせえ (手向き)

万事休す もう辞任じにんせにや しよんなか

万事休す 田植でんぢえを前に 田の地割ぢわりれ

万事休す 避難ひなん所ところまでも うつ潰つぶれ

晚酌ばんしやくは やっぱお爛らんば つけまつしゆ

晚酌ばんしやくは 息子いっしゆと同じ量りやう飲のます

絆創膏ばんそうこう 貼はった貼はったの 相撲しよま取り

半世紀はんせいき 回顧かいく記録きこくは 反省はんしやう記き (人生五十年)

半端はんぱじゃか 飲のうだ酒さか瓶びん 五万本

冷ひやえ込こんで 炬燵こたつが足を 引ひつ込こんで

冷ひやえ込こんで 出でるのも億劫おっくう 炬燵こたつ番ばん

冷ひやえこくり どころかしこも ひつ縮ちぢみ

日が沈しずむ シヤッターチャンス きゃー逃のがし

日が昇あり 生なかされてゐる 有り難ありがたさ

日が昇あり まだ片づかん じれったさ

彼岸ひがん会えにや だいぶ身み感かんも 良ようなつて

彼岸ひがん過すぎや 何なに処ところも彼か処ところも 草くさだらけ

引き合あわん 送り迎むかえで 飲のませくわせ

引き合あわん 筋肉痛きんくうつうで 医い者しや通とい

引き合あわん 講釈こうしゃく言いうて おろ捌はけ

引き合あわん たばこ時間の 多おほすぎる

引き合あわん 手の込こむ仕事しごと したがらん

引き受うけて 何なにの役やくにも 立たつとらん

弾はきもせん ピアノは遂ついにに 引ひき取とられ

卑怯ひしやく者もの 胸糞むなくそ悪わるか 腹はらごなし

引ひけば引ひく いっちゃつたとは 太おほかつた (phishing)

被災ひさい地に 真まっ先まへに來きい 春日はるひ差さし

膝ひざカツプ 揉もみ解ほしたりや おろ痛いたか

ひだるしや 唐芋からいも喰くうて 鰯いわし菜しや (食糧難)

ひだる腹はら 冷ひやや飯いばつて 美う味みかつた

ヒチ諄くんとか 何なに年ねん謝しや罪ざい せろてかい

ひちくどさ 同じ話わを もう五回

ひちくどさ 聞きこし召めしたか ヘゴの露つゆ

ひちくどさ たいぎやたいぎやで 諦あきらめろ

ひちくどさ たいぎや酔よいの まわらした

ひちくどさ 何なに遍へん謝しや罪ざい せにゃんかい

七五三 おんぶに抱かかつこ 手てを引ひいて

七五三 産うまてば産うまたり 二つぶせ

七分咲さき 誰たれか桜さくらを 折おつたとは

引ひつ掛かけた 噛かみもせえでん ひん飲のうで

ピツカピカ 一年生いちねんせいに なつたとね

ピツカピカ 散髪代さんぱいだいは 負おからんか

ピツカピカ 赤色灯せきしきとうは パトじやかか

ピツカピカ 電灯無用でんとうむよう エコロ爺おや

ピッカピカ フラッシュ炊けば 乱反射
ピッカピカ 床も廊下も 磨き上げ
ひっ切り無し 帰省車両が 数珠繋ぎ
ひっ切り無し 苦情電話の 鳴り止まん
ひっ切り無し ジャンボジェットの 離着陸
ひっ切り無し ちった俺にも 喋らせる
ひっ切り無し 杖突いてどま さるかれん
引っ込んで 年寄りの出る 幕じやなか
引っ込んで ここは私の 出番です
引っ込んで 根掛かりさせた そうにある
ひっついて 若つか者なら 兎も角も
秘伝てな 並うだっちゃ 喰てみたか
人一倍 稼ぎもすれば 飲みもする
人一倍 苦勞が実り 花開く
人一倍 する事あするが 言いもする
人一倍 練習量を こなさした
ひと口が 旨そうばって また太る
ひと口が もうひと口が 欲しくなり
ひと口の 積もりが遂に もう一本
他人事ば 何さすとじゃい 世話なこつ
人だけが どうし忙しか 猫は暇
一つでん 覚えたことは 荷にならん
ひとつふたつ いいとこ見つけ 誉めてやれ
ひとつふたつ 欠点ぐらい 誰もある
ひとつふたつ 妻に内緒に ひとつたつ

他人の世話 一銭がつも ならんとに
人の世は 塞翁が馬 常無らん
一肌脱いで 次代へ残す 技教え
一肌脱いで 伝承芸を 伝授さす
一肌脱いで まあたカップル 取り持たす
独り立ち おんぶに抱っこ それまでよ
独り寝て 逢えぬあなたの 夢を見る
独り寝の 夜長を耐えて 夢うつつ
独り飯 手っ取り早か 冷や奴
日向ぼこ 雲よお日様 隠さんで
日向ぼこ 先に猫から 場所取られ
日向ぼこ 日照権を 勝ち取らす
日向ぼこ 日焼け止め塗り サングラス
日向ぼこ ビルの谷間で 場所探し
避難先 住所不定の キャンプカー ネット句会6月
避難先 普段着なんの 持つとらん
避難して キャンプ経験 役立った ネット句会6月
ひねくれて せろと言われりや いやになり
火の側と 女御の側は 離れ得ん
火の伽と 仏壇の花 切らすまい
日の長んか 孫が来んなら 徒然なか (徒然なるままに)
日の悪か 卯みそ寅酒 辰油
批判続出 資源開発 軍事基地
批判続出 面倒見たよ 飴と鞭
暇じゃある 他人が何しゆぞ 勝手じゃろ

暇潰し^{ひまつぶ} パチンコなつと 弾^{たま}こうか
閑^{ひま}になりや 忙^{いそ}しかつが やつばよか
ヒマワリの 最後^{さいご}介錯^{かいさく}仕^{つかまつ}る
日捲^{ひめく}りが また剥^はぎ取^とられ 師走^{しうせ}風邪^{かぜ}
百^{ひゃく}円で 善行^{ぜんぎやう}気分^{きふん} 募^も金箱^{かねばな}
百均^{ひゃくぐん}で 何^{なに}でも揃^{そろ}う なかたなか
百^{ひゃく}歳^{さい}が 居^いて赤^{あか}ちゃん^{ちゃん}が居^いない里^{さと}
百^{ひゃく}歳^{さい}の 大^{だい}往^{おう}生^{じやう}に 子^こが拍^{ぱく}手^て
百^{ひゃく}姓^{せい}は お天^{てん}道^{だう}さまに 機^き嫌^{けん}とり
百^{ひゃく}姓^{せい}は 人^{ひと}のさす^さごて すれば良^よか
百^{ひゃく}八^{はち}の 煩^{ぼん}悩^{のう}払^{はら}う 除^{じよ}夜^やの鐘^{かね} (心^{こゝろ}の迷^{まよ}い)
百^{ひゃく}薬^{やく}の長^{なが}さは 医^い者^{しや}いら^らず
百^{ひゃく}薬^{やく}の 長^{なが}と言^とえども 過^かぎりや毒^{どく} (百^{ひゃく}害^{がい})
冷^{ひや}や酒^{しゆ}と 親^{おや}の意^い見^{けん}は 後^{あと}で効^きく (じわり)
冷^{ひや}やソ^そーメ^{めん} 冷^{ひや}えたビ^びールに 冷^{ひや}や奴^{やつ}
冷^{ひや}や水^{みづ}で 言^いわれん^んごてしゆ 隠^{いん}居^{きよ}の身^み
ヒヤリした ガ^がードレ^れールが 近^いこ^う寄^よる
ヒヤリした セ^せンター^{たー}ライ^ん はみ出^でとる
ヒヤリする 一^{いっ}歩^ぽ違^{ちが}えば 谷^や底^ぞ
病^{びやう}院^{いん}じゃ 半^{はん}額^{がく}セ^せール 無^なかもね^ろ
病^{びやう}院^{いん}を あちこち替^かえち きやあ死^しんだ
剽^{ひょう}げとる 火^ひ男^{おとこ}踊^{おど}り 撮^とつとこ^う
表^{ひょう}彰^{しょう}す 煮^く付^くけ綺^き麗^{れい}に 食^くた^たで賞^{しょう}
雹^{ひょう}降^ふらせ 雷^{らい}様^{さま}が あざ笑^{あざわら}ひ
病^{びやう}名^なに 加^か齢^{れい}ちゆう^うとが あつちやろ^か (彼^{かれ}は加^か齢^{れい})

ひよくーつと こが^こん時^じ間^{かん}に 誰^{たれ}だろ^か ネット句^く会^{かい}6月^{6がつ}
ひよくーつと ハ^はンドル持^もつた まま逝^しつた
ひよくーつと 元^{もと}カ^カノから^らの イ^いーメ^めール
火^ひ男^{おとこ}が 五^ご右^う衛^ゑ門^{もん}風^{ふう}呂^{りよ}の 釜^{かま}を炊^かく
火^ひ男^{おとこ}が 剽^{ひょう}げ面^{めん}して 腰^{こし}使^{つか}う
ひよつとして これ^{これ}は畏^{おそ}じや な^なかろう^か
ひよつとして の^のさる^るかもよ^と 齒^はを磨^こく (と^ときめ^めく)
ひよつとして 貫^{くわん}うた歳^{さい}暮^ぼ 回^かし物^{ぶつ}
ひよつとして 元^{もと}彼^{かれ}の^の声^{こゑ} じ^じやつた^たかも
平^{へい}がよ^よか 上^{かみ}り詰^{つめ}たり^や 世^よ話^わも世^よ話^わ
蛭^{ヒル}が吸^すう 吸^すうしこ吸^すえば 落^おちつど^う
昼^{ひる}ごは^ん た^たつた一^{いっ}人^{にん}じ^や 食^くう気^きせん
昼^{ひる}ごは^ん ラ^らーメ^めン食^くうて い^いつちよ^こう
広^{ひろ}いなあ 非^ひ常^{じょう}出^で口^{くち}は ど^どこだ^らか
広^{ひろ}いなあ 丸^{まる}い地^ち球^{きゅう}の 見^みえる灘^{なは}
広^{ひろ}いなあ 燃^もえる太^{たい}陽^{やう} 丸^{まる}呑^のみに
ピ^ぴンコ^こロリ 積^つもりが^がや^やつば 医^い者^{しや}通^とい
ひん脱^{だつ}いで お^おしめ^めイヤ^がり 逃^にげ回^かる
ひん脱^{だつ}いで 人^{ひと}の気^き配^{ぱい}に 狼^{ろう}狼^たえる
ひん脱^{だつ}いで 先^まずは一^{いっ}風^{ふう}呂^{りよ} 浴^ゆびて^てから
ひん脱^{だつ}いで 割^われた腹^{はら}筋^{ぢん} 見^みてみ^みさい
品^{しん}の良^よさ 色^{いろ}の白^{しろ}さ^さで 徳^{とく}しと^とる
ひんぱんに 夜^よ中^{ちゆう}目^めが覚^さめ 昼^{ひる}寝^ねする
不安^{ふあ}だらけ どう^{どう}にか^かなる^るさ ケ^けセラ^らセラ
不安^{ふあ}だらけ 安^{あん}心^{しん}の道^{みち} 探^たさに^にゃん

不あんばい 待合室で 見掛けんが
不あんばい 近頃酒が おろいくる
不あんばい やっぱハシゴが 噛んちいた
Vサイン 山太郎ガネは 美味かガネ
ブーイング アイアムケンジ 屈っせんぞ
風神に ピーエムとやら 吹き遣つて
夫婦喧嘩 いつの間にやら 仲直り
夫婦喧嘩 また始まった もう済んだ
風鈴に 風が唄わせ 踊らする
無塩ばな 何さま一切 食うてみる
不甲斐なか 子は大学に 遊ばせて
分が悪い 在庫ばかりが 山んごつ
分が悪い 追加公認 きやあするか
不器用 釘打つ積もり 指を打つ
不器用 雑巾縫いが 関の山
不器用 手作りの味 もう慣れた
不器用 手ば汚さんで 済まさるる
不器用 無かよりました 手為づくり
ぶきつちよう 包丁無用 惣菜屋
不器用 ミシンあるのに 仕舞い込み
露の臺 もう出て良かか 覗きよる
不気味でならん またあちこちで 大地震
不気味でならん ミサイル発射 挑発か
福島にや 戻ろう如って 戻られん
福袋 気に入ったつは 何も無か

(I S I S・健二)

ふくよかな 七福神な みなメタボ
不景気で 両手を挙げた 招き猫
不経済 封書の通知 利子五円
分限者 有る処にや 人集る(金の臭い)
不公平 散髪代は 安うせろ(ハゲ料金)
不思議だねえ あればあるもの 雨のねた
不思議だねえ 雷さんは 金が好き
不自由なし みぞがり殺し 愚うたらに
夫唱婦随 我が家は妻が 唱えます
二人限り ある物食うて うちよこ
二人限り 巢立つて空いた 子ども部屋
二人限り 掃除する部屋 多過ぎる
二人ばり 追い炊きせーじ エコロジー
二人ばり どんこんならん 物忘れ
不調法さ 幾らあっても 足らん皿
不調法さ つい冷食で 済ませよる
不調法さ 手を汚すのが 億劫で
不調法さ また夕飯は 店屋物
不調法さ 俎板要らん 冷食で
二日酔い しない薬が あればとて
二日酔い ちったハシゴの 過ぎたばい
二日酔い まちった寝せて うちよこ
物故者が 初手ん話に 出てこらす
ぶっ続け 休肝日など ありうかい
ぶっ飛ばせ 特急便で あの世行き

ふてぶてしい 猫が座椅子で 丸くなり
ふてぶてしい 脇見て頭 下げただけ
太つとる 痩せたかばって 飯や美味か

ふゆうじの 節句働き 物笑い

武勇伝 術後の傷を 見せ合うて

冬になりや 夏のほうが よかったぞ

ぶら下がり 服に合わせて ダイエット

ふらついて 赤提灯の 招きよる

ふらついて つつ転けんごつ ご用心

Bravo 拍手喝采 鳴り止まん

振り返り 昔はもてた こともある

振り返りや 悲喜交々の 半世紀

降り被り 干した布団が 気が気じゃか

振り切つて 昔は親が 今は子が

振り切つて 嫁ったばって きゃあ戻り

振り向くな 後ろ姿に 惚れくうだ (見違えた)

古い話 家内にや言うて 呉れなすな

古い話 波瀾万丈 回顧録

古い話 よう覚えとる 惚けじゃなか ネット10月佳

故郷納税 とうとパナマは さで下れた

故郷を 遠く離れて 六十年

古女房 クーリングオフ 期限切れ

無礼講 お前が言うか 無礼者

無礼講 マジに受けたら すぐ左遷

降れば降る 日んが毎日 テレビ番 (梅雨)

降れば降る バケツひっくり返やたごて

降れば降る 降らせ過ぎばな 八代亜紀

風呂上がり 息もつかんで ぎゅぎゅうつと

風呂上がり 服は着らんで 逃げ回り (裸の王様)

プロ選手 スポーツマンの 裏表

プロポーズ 決め手はやっぱ マイホーム

不和のもと 貸すな借りるな 義理欠くな

平気です 貯えだけは ちゃんとある

平気です 叩かれ強う なつちやおる

平気です 飛び降りたって パラシヨック

平気です 他人に無かもん 持ってます

日暮で あった物食て いっちよこう

へごちやご言うて 頭下げみち 知らっさん

へごちやご言うて 頭も下げず 辞むつとか

へゴの露 足取らるつと 露知らず

ベジダブル 虫が食わんごて 葉掛け

へそくりの 隠し場所まで きゃー忘れ (もう無いかも)

下手糞ちや 数撃ちや当たる 鉄砲撃ち

下手の横好き 傍迷惑も 程々に

下手の横好き 本人自慢 はた我慢

へっちやらで 岩山走る ダウンヒル

へっちやらで 世渡り実は 綱渡り

別嬪さん 追い掛けたって 逃げ上手

別嬪さん 手招きしても 知らん振り

屁の河童 打たれて凹む やわじゃなか

屁の河童 掛かってこいと のたもうた

屁の河童 河童は合羽 要らんどろ

屁の河童 どん底暮らし 絶えてきた

熊日
4/15

屁の河童 他人の噂は 知っちゃおる

屁の河童 三つで泳ぎ 覚えたつ

部屋から部屋 スマホで「ごはんできたわよ」

部屋から部屋 苦手力士の 胸を借り

部屋から部屋 ノックご無用 ふすま越し

部屋から部屋 ふすま開いて 大広間

ヘルパーが 来るころだけん 片付けにや

ヘルパーに 抱かれ爺ちゃんコチコチに

返事の軽さ 断れんしこ はずみよる

返事の軽さ 仕事貰えりや 良しとする

変なくせ 外で飲んでも また家で ネット句会5月

変なくせ 混ぜて飲んでも 何のその

便利さに 不便なお釣り ついてくる

便利さも 面倒くさい パスワード

遍路さん 暑か時どま 麦般若

防衛に 金は出すから 守ってね

方角違い 頭使わん方に行く

方角違い 庶民に味方せん政治

方角違い またカーナビが ウソ言うた

方言は 使わんならば 消えていく

坊さんの 引くに引けない 後ろ髪

方角も無や そがん狡して よかもんか

暴走車 やかましゅうして のすこつか

ボーナス すでに出口は 決まっとる

ホーホケキョ 練習中は ちやつちやつちや

ほうりやみる 言わんこっじやか 咳しよる

惚け出やーた 二人でやつと 一人前

惚け出やーて 総身に知恵の 回り兼ね

惚けとらん 初手んこたあ 覚えとる (三つ子の魂百まで)

惚けとらん 徘徊しても 家路まで

惚けとらん 惚れた女の 誕生日

ポケモンで 俺は退けもん 妙なもん

惚け予防 よぼよぼしてちや 散歩さす

埃かぶって 阿弥陀如来が お気の毒 熊日
7/15

埃かぶって 毛バタキやどこか なおしこみ

ボスじゃある 指揮をとりとり 士気あぐる

補正して 体に合やす 巧技 (fashionreform)

ポツカポカ 陽気で桜 開花させ

坊ちゃんて もうは言わんで くれんかい

布袋さん 日本のサンタ かもしれん

火照る面 よか風呂ですな 顔なじみ

骨折って 棚田を守る 爺と婆

骨折って 残した美田 休耕地

誉め千切り 値切る魂胆 恵比寿市

法螺吹きが 頓珍漢な 口叩く (鐘が鳴る鳴るキンコンカン)

掘り返し 年度末まで 使い切る (予算消化)

本卦還り 老いては再び 稚児になり (還暦)

本渡瀬戸 潮ん引いたら 徒歩渡り (海が割れるのよ♪)

盆殿にや 先祖様への お持て成し

盆前に 初穂の米も 忍べ終え

本なこつ 冗談言うても 通じらん

本の山 人が触れば すぐわかる

本の山 書棚よりかも 探しよか

まあ落ち着け 電源切った 靴履いた

まあ落ち着け 残りくじにも 福はある

まあ座れ 言いたいことは 解つとる 熊日 6/9

まあ座れ お前のために 言うておく

まあ座れ 急いては事を 為損じる

まあ座れ もだゆれろくなことはなか

まあだ幼い 当てにしている 七光り

まあだ幼い 体格だけは 早生太り

まあだ幼い ひとりでつかい 行けるどか

まあだだよ 迎えに来んちゃ 俺が行く

まあだ寝とる 戻つてみれば もう寝とる (レム睡眠)

まあだピーピー 家のローンが 残つとる

まあだピーピー こっじや子どもも 養えん

まあ早さ 終活まずは 墓地を買う

まあ早さ テレビはつけた ままねとる

まあ早さ 半年経たず 抱いてきた

まあ早さ 臍の緒つけた まま歩く

まあ早さ ボルトは息を 止めたまま
マイカーが 八十過ぎて 車椅子

マイカーは 俺の運転 妻所有

毎食後 持病の薬 欠かされん (印籠が目に入らぬか)

まいつとき 我慢しとけば 子が稼ぐ

毎度毎度 期待もてない マニフェスト

毎度毎度 心こもった お中元

マイペース 人の話の 腰折つて

マイホーム 俺の居場所は ナイホーム

前向きに 俺を励ます 駐車場

前を向き 立ち直らんで どうするか ネット句会2月

前を向き へこたれとつて どうしゆうに

前を向き 迷わず一步 踏み出やた

真央だけは 脇目も振らず 駆け抜ける

任せとけ 叩いた胸の 薄かこつ

紛らわし 同じ器に 入れとつと

枕呉れ 此処にや私の 膝のある

枕なら 此処にあるのに 腕枕

負けてくれ 髪の毛の数 少なかる

負けられん がっぷり四つで 綱狙う

孫が聞く バア婆の味が 母の味?

孫が寝て 大吟醸で 飲み直し

まこてばえ 稼ぎきつとき 稼がんば

孫の来て 勝手知ったる 捜し物

孫の為 爺が一肌 脱ごうわい

孫の名は 読みも得んば 書きも得ん

孫離れ バーベキューでちや 釣れもせず
マスクせにや またピエムが 飛来する
マスクマン 挨拶あしたか 誰っじやいろ
先ず手本 大人が変わりや 子も変わる
混ぜくつて くじ引きしたりや 大当たり
混ぜくつて 新米古米 解るまい
混ぜくつて 人の気持ちも 知らないで
混ぜくつて 分けて資源に すれよかて
混ぜたくり どりがどりじやい 判りやせん
混ぜたくり ババがどつかに 紛れとる
また会おで 生き長らえて 杖ちいて
まだ明つか 飲み掛かつとにや 気の毒つか
まだ明つか もう一仕事 我慢出そう
まだ言うか 往生際の 悪いもん
またおらん 出たきり老人 どこさるく(徘徊)
まだ懲りん 失敗せんば 止めきらん
また来んね 本気にしたりや また来たね
また地震 ぐらつとすれば 跳び起きる
また地震 誰も彼もが 震度計
また地震 なあんだ妻の寝返りか
またしても 五輪トラブル 無駄遣い
まだ遠か 足腰鍛えた 甲斐のあり
まだ遠か 油の切れはせんにいる
まだ遠か 生きとる内に 国交を
まだ遠か 三県架橋は 夢の夢

又とない 生きとるさきは ありつけん
又とない 生きとるうちに 拜んどこ
まだ寝とる 添い寝した子は おずどつて
また一人 逝く人絶えず 春彼岸
また揺れた 今の震源 二階だろ
まだ余震 避難バツクは 手放せん ネット句会6月
待たんかい 聞き捨て成らん そのことば
待ち合わせ 今見た時計 また見よる
待ち合わせ 早めに来ても もう来とる
待ち合わせ もうドキドキは のうなつた
間違いのもと 口約束の 担保無し
間違いのもと 四十後家とは 旅するな
間違いのもと 飲んだら乗るな 飲ますんな
間違うて 鏡の吾がに 話しかけ ネット句会3月
間違うて ぐいと焼酎 ひん飲うだ
待ち遠し 爛がつくまで 冷やを飲む
待ち長さ 何時の事やら マイホーム
待ち長さ 罹災証明 瓦礫処理
待ちなつせ そがん急で だけ行くと
待ち長さ 採用通知 まだ来んか
真つ先に 流行病を 取り込もうだ
真つ先に 眼で味見する さくらんぼ
真つ直ぐに 生きて来たとに 腰や曲がり(品行方正)
待つてみる まあだ話しは 済んどらん
待つてみる ゆう考えて 返事する

待てど来ん 磯で独り寝 させらるる

まてまてまて 二次会場は 俺が持つ (同窓会)

纏まって 特産品で 町興し

組板の 出番無くなり チン料理

学舎は 記念碑だけで 姿あなか (廃校)

間に合はん 親の臨終 赴任先

間に合はん 片っ端から 平らげて

間に合はん 好きなあの娘は 嫁らした

間に合はん 作る人より 食べる人

間に合はん トイレの前に 人の列

真似しごろ 親のする事あ じき真似る

真似ができない かなり苦労も 多かろう

真似ができない 相当鍛え らしたふう

熊日 6/24

忠実からす 隅にや置けん 色男

忠実なもん お勤め前の 朝仕事

豆まき 鬼から親父 追い出され

眉唾ぞ 聞いた話と えりや違い

迷い無く 生きてきたのに 道迷い

まるで夢 摘出された 胆石に

まるで夢 昔は総て 手作業で

丸もうけ 持参金付き 美人妻

まわり道 捲土重来 期さじやこて

まわり道 伊達にや場数 踏んどらん

まわり道 何様早う 橋架けて

まわり道 無駄じゃなかった 成し遂げた

真ん中あたり これから先が 勝負どこ

真ん中あたり 孫の成績 親譲り

万歩計 手でも揺すって 加勢さす

見いきらん 包帯取って 見ろちゆわす

身内でん 金の貸し借り 不和の元

見栄を張り お家ガラガラ 火の車

見限って 医者が坊主に 鞍替えし

ミカンの木 酸いも甘いも 生り分けて

身寒のよさ 野良仕事にも 扱がいく ネット句会11月

身寒のよさ 化粧直し せんでよか

見切り品 値切る積もりの 誉め千切り

見比べて よその嫁ごが 良う見ゆる

未経験 そこは彼女に リードされ

見事なもん H難度の 捻り技

見事なもん ボルトに引けを とつとらん

見頃なら やっぱ盛りの 一寸前

ミサイルが 主権国家の 自衛措置

見知らん人 一献如何 無塩ばな

見知らん人 子を取り持った 保護者会

見知らん人 差しつ差されつ なめなつせ (刺身肴)

見透かされ 奥さんちゆわれて 慌てらす

水回り 妻が設計 役回り

無惨みぞうげ気か 鳥インフルで 殺処分

無惨みぞうな気 孫には食い扶持ふち 残しとこ

みぞかねえ 時間よ止まれ そのまんま

みぞかねえ とつて食いたい 孫娘

みぞかねえ 孫はなしてか おれ似とる (隔世遺伝かくせい)

みぞか孫 似ても似つかぬ 憎い嫁

みぞがられ 養い殺れて 木偶でくの坊ぼう

見たかねえ 東京五輪 決算書 ネット句会4月

見たむ無か 裸踊りは 芸じゃ無か

見たむ無か 裸ばりーで 出て去る来く

乱れ生おほし おんぶにだっこ 手を引いて

乱れ生おほし 節約しても 追おい付かん

乱れ生おほし 嫁とつぎ先から 脛すねかじる

見違えた 馬がレディーに なつとらす

見違えた 馬子にも衣装 ちゆうもんな ネット句会7月

見違えた 鳶とびが鷹たかン子 連れとらす

道標みちしるべ ナビより詳しい カカーナビ (navigation)

見ちやおれん ナイフはこがんで使う

見ちやおれん 恥や外聞 憚はばからず

蜜かけ 脳の随まで キンときた

見つからん ほたくり出して 仕舞わした

身づくろい 白装束に 遍路笠

身づくろい 大事な人が 待ってるの

見つめ合い 連れ添うたとに 睨にらみ合い (あっち向いてホイ)

見て学ぶ 親の背中が 子の手本

見てみさい 他人ひとの手際は 盗み取れ

皆の衆 宗派を問わぬ 皆の宗 (天草巡礼)

皆平等 起きて半畳 寝て一畳 (あれば良か)

身の危険 慮おもんば 慮かって 差し止むる (旅券発行)

身の破滅 宝くじから 狂わした

見張りする 案山かかし子とカラスの 知恵比べ

耳元に 蚊の一匹が 眠らせん

耳も目も セミが鳴いたり 蚊が飛うで (耳鳴り・飛蚊症ひぶんしょう)

見ゆるさき 良か日和りには 草筆むしり

夫婦みょうとばり 旅行三昧 良かいちり

妙なもん 今注いだとに 漏もつとる (そらぎゅつ)

魅力無か そがんじゃ無かと 縁が無か

見る見る内 家の中まで 水浸し

見る見る内 田畑も道も 丸呑みに

見渡す限り 起きてびっくり 銀世界

見渡す限り 白一色に 雪化粧

見渡す限り 秀でた人も 居らんふう

見渡す限り またもPM 撒き散らし

見渡す限り 見事変身 銀世界

身を賭として 焼け野の雉きぎす 子を守る

みんな一緒 死ぬときや一人 無一文

みんな一緒 損するよりも 儲けたい

みんな一緒 出はすより入はいる 方が良か

みんな師走 あれこれせにゃん こつばかり

みんな師走 片付かんこつ 多すぎる

むうらしか たいぎやで梅雨は 明けんどか

迎え火の LEDは 今風ぞ

むかつ腹 どがしこ飲うでも 酔いもせん

無我夢中 カニ食う時は 何故無口

無我夢中 子ども三人 育て上げ

無我夢中 子はうっちよいて 弾きよる (パチンコ)

麦取納 脱穀後の むつ痒か

向き向きに 合わせリメイクして呉るる

向き向きに 品数揃え やおいかん

むさくるしい お茶出されても 手の出らん

むさくるしい その髭面じゃ もてん筈

むさくるしい たまにや空気 入れ替ゆう

虫食れが これぞ誠の 無農薬

虫食れが これぞ誠の 無農薬

虫食れは 安全保障 自家消費

虫食れに わが家自慢の 無農薬

虫の声 月の夜に聞く ノクターン

虫干しで 昼うでなわす 思い出も

難しか 綱渡りより 世渡りが (渡る世間は鬼ばかり)

息子から 貰た小遣い 孫に遣る

むずむず 今か今かと 出番待つ

むずむず 俺の出番だ 腕が鳴る

むずむず とうと黙って おりきらん

むずむず 目汁鼻汁 花粉症

無税てた 一千万ば 孫ん為

むぞらしさ 飼い主知って しつぽ振る

むぞらしさ 汚れ知らないままでいて

むぞらしさ 座席譲って 手を添えて

むぞらしさ 四五年経てば 憎らつさ

むぞらしさ 歩道渡って お辞儀する NHK 10/20

無駄使い 水道工事は 舗装後

無駄な物 捨てると言うて 俺を捨て

無頓着 共同責任 無責任 (責任転嫁)

胸付けに 抓み食いせにや 待ち切らん

胸キューン ハンカチ王子 あの仕種

無農薬 安全だけん 虫が食う

無農薬 こだわるくせに 薬浸け (無能役)

村祭り 並ぶ出店に 人集り

無理言うな 美しく老いる 筈がなか (美人薄命)

無理し過ぎ 両方立てれば 身が立たん

無理でしょう 高嶺の花に プロポーズ

無理でしょう 努力もせんで 神頼み ネット句会10月

無理も無か あがん食うなら 太るはず

無理も無か 親が親なら 子も子たい

無理も無か 勝てる相手じゃ なかつたつ

無理も無か 世間知らずの 籠の鳥

無理も無か 奴が一枚 上じやつた

無理を言うな 退院祝いに 飲めという

無理を言うな 妻の両親 見る羽目に
酩酊して 有り金はたき 素寒貧
酩酊して 家に着くまで 覚え無か
冥土のみやげ 小切手帖も 持って行こ
冥土のみやげ 物より金が 良くなかか
迷惑な 洗濯物に ヘエの降る
迷惑なはなし 野菜畑が 灰被り
迷惑なはなし 収穫前に 猪め
夫婦茶碗 大で食うのは いつも妻
目が合うて 頷き合うて チェックイン
眼鏡がね 無ければ先が 見えんとよ
めくじら立てて 言うて世間が どう変わる
めくじら立てて 意見する気も 無くなつた
めくじら立てて 一喝囃ませ 黙らせる
めくばせで 今日は良かよと 合図する (wink)
巡り会い あれよあれよと 夜半の月
目覚しの チャボが時には 朝寝する
目覚しより 早よ起き過ぎて 暇潰す (心配)無用
めしの種 嫌な仕事も 厭わない
めしの種 楽に稼いで 趣味生かし
飯前に 下げて頂く 御仏飯
飯や要らん 流動食で 我慢する (アルコール飲料)
飯ん菜 期限切れは オレの皿 (検査役)
飯ん菜 山菜あれば そつで良か
飯ん菜 高菜漬け物 あつたかな

飯ん菜 ワラビにタラに フキにツワ
珍っさ 股大根な 男ん子
珍っせ どこそこ眺め 去る来つた
滅多なか 鑑定結果 柿右衛門 (家宝)
目出度さも どうろこうろの 俺が春
目で判る ちつた気のある 如つとん
目に見えん ものにも感謝 あればこそ
目の合うて どうも包丁 入れにつか
眼の手術 娑婆が綺麗に 見え過ぎる
芽は摘むな 子どんが好きに させてやれ
メモ帳を 置いた所ば メモしとく
メモ帳を 探す間に 用忘れ
目をこすり 捻り鉢巻き 受験生
目をこすり 火熾し吹くばつ 炊きつかん
目をこすり 間違いじゃなか 大当たり
目をつけて 一番成りは 鳥の餌
目をつけて 熟るる端から 突つ抉る
目をつけて 素質見込んで 後継がす
目をつけて まだ伸び代を 持っている
目を細め 字の小もうして 読みきらん
面倒か 聞こえん振りを 決め込もうで
もう飽きた 三日も同じ 貰い物
もう嫌 草引きばかり また生えて
もう嫌 透析針は 見とうなか
もう嫌 飲兵衛亭主 朝帰り

もう嫌 来世は他ん夫が良か
 もう要らん 三日も同じ 菜ばっかり
 もう追い追い お呼びの掛かる 歳になり
 もう追い追い 鎮まり賜え ナマズ殿
 もうおまけ どがんでんよか 息しよる
 もう遅か 積もる話しは また明日
 儲け出し 二次会場で ハバ利かす
 もう来らす 長夜を待つて 夜が明けた
 もう懲りた 悲惨な戦 しちやいかん
 もう時間 話の続きは 二次会で
 もう終い 嬢に杯 押っ盗られ
 もうしまい 醸めて飲うで 帰らした ネット句会3月
 もうしまい 人手に渡る 家屋敷
 もうしまい 昼の分まで いち食うて
 もうしまい 年金日まで ツケといて
 猛暑日の ツケが回った 電気代
 申し訳程度 さつと一降り 通り雨
 申し訳程度 ボーナス擬き 配らした
 もうたくさん 言い訳せずに 辞めちまえ
 もうたくさん 浮気相手と 幸せに
 もう頼まん 長うかかって 高こちいた
 もう頼まん 値段がたなか 不細工つか
 もう頼まん 吾がでしたが まーだ増し
 もうちった 増しな男は 居らんどか
 もう一寸 まあだ納骨 しとうなか

もう慣れた 何遍来ても 狼狽えん
 もう慣れた 寝言齒ぎしり 高軒
 もう二十歳 自分の足で 歩かじや (自立)
 もうは寝ゆう 午前様にや 付き合えん
 もうよかる 釣つても料理 しこなさん
 モグサの火 見えんどぼつて 燃えとつと
 もだえんか 早よ取り込みにや 雨ん降る
 もだえんか 三步以上は 駆け足で
 もだえんか 待つとき得んで 果行かす
 もだゆんな 急いては事を 為損じる
 もだゆんな まだお釈迦さん 寝てござる
 持たん振り ここは甘えて いちちよこう
 持たん振り テロの策略 躲しよる
 餅や搗いた 掛や払うたばつ 歳や要らん (正月準備)
 勿体にか 食い残すなら 余計取んな (取り皿)
 勿体無か 枯らす鉢植え また買うて
 勿体無か 賞味期限な 過ぎちやおる
 勿体無か 遂に我が家も ゴミ屋敷
 勿体無か 履かれん靴が 何足も (急成長)
 勿体無か 餅肌じゃって 塗った繰り
 勿体無か 優勝チームの ビール掛け
 以ての外 くんだり向きに 青二才が
 持った人 使い上手で 貯め上手
 持ってる人 期待する人 裏切らん 熊日
 持ってる人 ここ一番で 仕事さす 2/25

持つてる人 さすが持ち物から違う
持つとつて ケチケチせんで よかろうで
持て余し 何時もサンデー 暇と金(悠々自適)
下暗し 近して見えん 吾がマツゲ
もとの彼 出世したばい あの羽振り
もとの彼 生活力が 今ひとつ
もとの彼 はがいか美人貰うとらす
戻られん あの世はそうにや よか処
戻ろうか 今夜食うしこ 釣ればよか
戻ろうか 女房の角が 目に浮かぶ
もとワルが 儲け出あて はばきかす
モナリザが あつ俺だけに 微笑んだ
モナリザの 怒った顔が 見てみたか
ものしずか いつもにっこり 聞き役で
ものしずか 出席してにや おんなした
ものしずか 端が急いても 狼狽えん
ものしずか 太か声どま 出さつさん
物好きが 他人の世話より 早よ貰え
物になる 機転は利くし 手も器用
物になる 仕込んでやった 甲斐のある
もの見事 餌だけ取って 逃げられた
もの見事 大横綱を 裏返し
もの見事 小兵業師の 上手投げ
もの見事 師匠も唸り 太鼓判
ものは試し 一日主婦を させてみる

ものは試し ドローン試乗 してみた
物忘れ 晩酌だけは 覚えとる
物忘れ 惚けじやかと 負け惜しみ(初期症状)
もの笑い 知ったか振りで 里が知れ
貰い物 タダより高か 物ななか(倍返し)
貰い物 何事じやろか 赤飯は
盛りあがり 同窓会の 朝帰り
貰たまま 埃被った 引き出物
文句あり 他人には人の 考えが
文句言い 腹が減ったら 食いよつた
文句なし 見る目は同じ ジイ難度
文句なし 息子の嫁に 貰いたい
文句なし 家内にやとても 背けない
物足らん 味見してみる 塩調味(塩梅)
物足らん 今いち味の 薄かった
やいやもう いっちゃったとは 太かった(釣り逃し)
やおいかん 娑婆の荒波い きゃー飲まれ(波瀾万丈)
やおいかん 惚れた女房 惚けじやあた
やおいかん 娘三人 嫁がする(破産する)
やかましか 言われたくなか 若造に
やかましか エレキバンドの 稽古げな
薬膳料理 まちった増しな 菜なかか
役立たん 食うばっかりの 加勢じやつた
役立たん 番犬のくせ 尻尾振る
役に立つ 人道支援 お礼なし

役目終え 漬け物重石 なった曰

役目がら 見逃す訳には いかんたい (検問)

野菜ぎれにや 虫の喰わんごて 藁掛け

野菜つくり 吾が口よりか 子に孫に

野菜畑 肥料はみんな 草に効き

矢印に 誘われて行く 遍路道

安かった 買ったばってか 仕舞い込み (消費は美德)

安かった タンスの肥やし また増えた

安過ぎる マシな仕事は 無かつかい

休もうか 切りの良かれば タバコしゅう ネット句会7月

休もうか そろそろ電池切れしそう

痩せ我慢 遠慮ひだるし 伊達寒し (伊達の薄着)

やぜらしか 飲うで効くなら 安いもん

やぜらしか プンブル蠅が 集つとる

やぜらしか 外野席から 野次りよる

薬局に 卸すしこある 飲み残し

やつとこせ 子がそれぞれに 食うていく

やつとこせ 大学までは 出したとに

やっぱ近所 洗濯物も 取り込もうで

やっぱ近所 初物ちゆうて お裾分け

やっぱこれ 自産自消で 味噌を搗く

屋根の上 太陽光で エコライフ

屋根の上 電気つくって 加勢さす

破れ口 人の口は 塞がれん (戸は立てられん)

山仕事 自家発電で 暖まる

山育ち 生きる力が 半端無い

山育ち 潮騒の音 眠られん ネット句会8月

山育ち 松茸採りなら 任せとけ

病み上がり 口濯ぐだけ 飲うでみる

病み出し 大事なつれに 付添とつと

止むを得ん 赤字覚悟で 任せたつ

止めきらん 一本ちゆうて 吸い出した

やめたやめた 競馬競輪 酒おんな

やめたやめた 手間の割には 儲からん

止めとこう あと一杯が 欲しかばつ

やめなさい 原発回帰 まだ懲りん

やめなさい コンパで酒の 一気のみ

やめなさい 優勝祝う ビール掛け

ややこしか 旗振りばかり 多う過ぎた

ややこしか 曲がり損ねた ばつかりに (カーナビ)

ややこしか 読めん名前ば 付けたもん

ややこっさ たったこぎやしこ 貰うとに (補助金申請)

やりたい放題 俺が角界 背負うとる

やりたい放題 数の力に 物言わせ

やりたい放題 資源開発 軍事力

やり難つか どんこんならん 好き嫌い

遣り放し 休肝日なんの あろうかい

遣り放し 飲んで良かとは 医者言わん

遣る気無し ギターの弦は 切れたまま

やるしやなか 雨は降る降る 糲干場

やろうやろう 口より先に 手が動く

やろうやろう 山が動いた コミュニティ

夕支度 女子会だから チンしてね

夕支度 お惣菜屋で 済ませおる 熊日 11/12

夕涼み 蚊が俺の血で 酔っぱらた

夕空に 特攻僥ぶ 赤トンボ

Uターン 定年族が 故郷へ

良う出来た 籠はメジロにや 棲まわせん

良う出来た 飲み比べする ヘゴの露

良う撮れた これは遺影に 取つとこう

良う穫れた 地の神様に 上げ申う

良う持てた これから先が 正念場 (耐久性)

良う飲うだ 早よ寝てしゅう 早起きば

雪達磨 転ぶたんびに デブになる

諭吉さん 直き果行かす 羽付けて (万札)

揺さぶって 爛瓶滴 溜めらす

揺さぶって 内臓脂肪 気にもせん

譲り受け 似て欲しくない 遺伝子も

譲り受け 金にならない 山五町

ゆたーっと 湯船に浸かり 猪口片手

豊かです いつまでこれが 続くやら

豊かです がむしやら気張り 今がある

豊かです 日本支えた 知恵と汗

豊かです 曲がったキュウリ ポイしよる

豊かです まとめ買いで 腐らせる

揺たぶって 汁は零べて 仕舞うとる (出前)

湯湯婆の 用が済んだりや 蹴り出され

指舐めて 障子ほがして 覗きよる

夢現 覚めないでくれ 良かところ

夢の中 ちようど良かところ 揺り起こす

夢みたい 氷川きよしと 握手した

湯餅喰い 喉え引っかけ うう騒動

揺り起こし ああせからしか またイビキ (安眠妨害)

ゆるつとして 按摩機かけて 眠りおる

酔い醒めの 水は甘露の 味がする

ヨイシヨツと 今日のエンジン 起動させ

よく聞け 口は閉じてても 目は開け (開眼)

ようし見ておれ あの悔しさを バネにする

ようし見ておれ 大逆転の お家芸

様態して 足踏み先も 無か如る

用心深さ 傘はいつでも 杖代わり

用心深さ 監視カメラに 見張らせる

良う出来た 籠はメジロにや 棲まわせん

良か足湯 水虫菌の 養殖池

良か塩梅 酒ん菜まで 下げて来た (持込)

良か塩梅 降りもせんなら 照りもせん

良かいちり 気遣わんとが いっちよか

良かいちり 元気澁刺 夫婦ばり

良か潤い 野菜作りにや もってこい
良か男 話し下手じゃば 気前良か
良か女御 気立ての良さに 惚れ込もうだ
良か女御 見とれて嬢に 抓まるる
良か家内 長年経てば おつ家内
良か気色 蚊にもほろ酔い 分けてやり (献血)
良か幸い 親の居るはざ 同居して
良か幸い 美人の横が 空いとった
良か者良か 稼ぎ足らんか 天下り
良か正月 家族揃うて 初詣 (健康祈願)
よか体格 食うとも食うが よう気張る
よか体格 知恵は総身に 回りかね
よか体格 力仕事は もってこい
よか体格 見事合格 新弟子に
良かつたね 親に似らでん 器量好し
よかつたよかつた 命あつての 物種ぞ
よかつたよかつた 瓦礫の下を 這うて出た
よかつたよかつた 怪我しただけで助かつた
良か日和 ドライブしゅうか 何処なつと
良か日和 窓から布団 ベロ出して
良か日和 窓にずらりと 干す布団
良か日和 胸の空気も 入れ替ゆう 潮騒 31
良かもんか 生活保護で 弾きよる
よか夢は 録画でくれば 良かぼって
よかよかと よかを聞き分け 納得し

良か嫁御 今ほどがんちゃ よか嫁御 (賞味期限切れ)
良かりいろ 偶の休みに 割り込うで (邪魔)
良かりいろ 離脱ドミノに ならんどか
良かろうば おりげ泊まりぎや はちけえな
良かろかい 年金貰て 役立たじ
良かろもん 最後はいつも ラーメン屋
良かろもん たまにや二次会 つきあえな
良き友よ 君が居るから 俺がある (友は良き哉)
よく言うよ 核持つとつて 核持つな
よく言うよ 他人の失敗 吾が手柄
よく寝てる 抜くに抜けない 腕枕
欲づいて どしこ長生き する気かな
欲の無さ 食うていくしこ あれば良か
欲の無さ みんなに分けて 仕舞わした
欲の無さ 優しさだけが 取り柄なの
欲の無さ 吾が食い分も 子に孫に
欲の無さ 吾が分け前も 他人にやり ネット句会 3月
欲張つて 心は二つ 身は一つ (分身)
欲張らん 財産よりも 銭がよか
良ござすか 目籠担どんの 鯛売り (行商)
善し悪しは 臭いで解る 香の物
寄せ鍋で グチグチグチと 愚痴煮詰め
止せばよいのに 違法カジノで 五輪ふい
止せばよいのに 吾がじゃ若つかて思うとる
様相悪しか じゅっかり入って びしよびしよに

他所行きに うったつまでが 暇要らす
他所ん飯 角ん取れて 丸うなつた (出稼ぎ)
他所ん飯 やっぱ食たがた あつたばい
涎繰り 牡丹餅いお経 上げよらす
酔ち食ろて 泊まるホテルば きやあ忘れ
寄つてたかつて これも似てるぞ エンブレム
寄つてたかつて 東京五輪 ケチ付ける
寄つてたかつて 出る杭狙い 扱き下ろし
酔つぱらい 刺した蚊まで 酔つぱらい
世は様々 テロや戦が 聖戦か
世は様々 防衛してよ 金は出す
嫁貰て よつぽど嬉しかつじやろだ
嫁るなら 増しな男ば 選ばんか
読めん 俺にだけだと 言うといて
読めん なしてか白髪 染め出あた
読めん ハシゴの後に 寝返つた
予約せにや 施設の空きも 後わずか (予約殺到)
与野党で 互いのアラの 探り合い
よよんこて 三本足で 墓参り
よよんこて スマホ捲り 様になり
寄り掛かり 駄目よダメダメ 独り立ち
寄りつけない 政治の話 ばあつかり
寄りつけない 専門用語 鼻にかけ
選りにもよつて 名前が同じ 妻と母

選りにもよつて 元彼の子に 嫁がせて
夜の町 足の向くまま 赤のれん
夜の町 街頭補導して廻り
夜の街 ちよつとだけよが ついハシゴ ネット句会7月
夜の町 何とはなしに 足の向く
弱つたな 妻のクシヤミにや 敵わない
弱つとる 胸損のうて 反吐の出る
寄んなつせ 丁度刺身の 小切りたて
夜んのふて 雨ん降つとん 崩えんどか (土砂災害)
夜んのふて ナマズがまあた ばてぐるう
樂しゆうだ 一番樂は 棺のなか (棺桶)
ラグビーを ひとりで背負う 五郎丸
埒明かん 維新の真意 嘘ホント
埒明かん 近くて遠い 国事情
埒明かん 領土問題 ラチやテロ
ラチ家族 付度するも 手にや負えん
ラッキョウは 食いたかばつて 臭うして
ラブラブで 相合い傘で つんのうで
ラブラブで ストロ―二本 頼寄せて
ラブラブで 一つの皿を 半分個
ランドセル お下がりなのは 僕一人
ランドセル 玄関先に 投遣つて
理不尽を ぐつと飲み込む 強かさ
利益なか ありもころもと 頼み過ぎ
領収書きつてと言われ 印紙じゃろ (切手)

料理好き 味見だけっっちゃ 腹一杯
料理好き レシピは総よ 脳みそに
料理より 器を褒めて 帰る客
冷静さ あの笑顔とは 何じゃろう
礼服の お世話になる日 葬儀だけ
レリーゴー そんなままでよか 気にすんな (Let it go)
蠟燭は 我が身を減らし 人照らす (心血注ぐ)
老若男女 貴賤貧富の ない社会
老若男女 皆平等の コミュニティ
陸でなし おんぶに抱っこ あまゆんな
六根の 清浄なれば 存えて
吾あが死期 判っておった そうにある
わあ臭や 屁は肛門の 欠伸なり
わあ高つか もちつと安う ならんどか
わあ太さ またポリウム 上げとらす (ハイビジョン)
わいわいがやがや 時間の足らん 同期会
わいわいがやがや 生徒は話 聞いとらん
吾が家つちや 置き場んなか 粗大ゴミ (廃棄物者)
若返り 衣装化粧が 派手でしよう
若返り 白髪もシワも 隠しとる
若返り 輪に跳び込んで 踊り出し
若くはなか うったち晴れのせん家内
若くはなか 歳と言われりや 腹が立つ
若くはなか 三次会には つきあえん
吾が手柄 言いたくなかばっ 恩知らず

吾が手柄 嘘八百を 並べよる
吾が手柄 失敗全て 他人のせい
吾が都合 時にや数えで 使い分け (満年齢)
わかつた 話の早ア 苦勞人
わかつたらん 俺には俺の 主義がある
わかつたらん ことば通り きゃあ受けて
わかつたらん 娑婆は一人じゃ 渡られん
わかつたらん 誰も続投 望みやせん
わかつたらん とやかく言うな 俺の趣味
わかつたらん 吾がじゃ上手で 思うとる
我がもの顔 猪親子 お通りだ
我がもの顔 玄関先に 巢をつくり
わが家には 三人が母 経験者
わかる人 決つして面に 出さっさん
わかる人 ちゃんと面には 書いてある
わかる人 人の痛みと 優しさと
わかる人 目が合うだけで 領かす
わかる人 わからぬ人と 分かち合う
若若しゅ エステティックに はまっとる (Asthetik)
分け入って 手刀切つて 陣取つて
わけは無か 顎をしゃくれば 部下がする
わけは無か ビールの栓は 歯で開くる
わけは無か 指一本で キー操作
災いも 三年経てば 福の種 (災い転じて福となす)
煩わしい 僅かな補助の 申請書

煩わしい たったぎゃしこば 貰うとに

忘るんな 義理は借り物 返す物 (義理百遍)

忘るんな 戦後の暮らし 惨めさを

忘るんな 不自由か時も あった筈

忘れとる 義理も情けも 人情も

忘れとる 先祖供養も 墓花も

忘れない 困ったときの 助け合い

忘れ物 取りに戻って また忘れ

忘れられ 肩書き取れて 里暮らし

忘れられ 事故の教訓 活かされず

わたしの自由 あなたの居ない 間だけ

わたしの自由 何時起きようが 食べまいが

若っからす お世辞じやろばつ 嬉しかね (乗り易か)

若っからす 黒からすばつて 綺麗からす (烏勘三郎)

わっじやろう 内緒にしても バレバレぞ

詫びしいよ 家内の居ない 独り飯

侘びしかね 卵飯じやい 冷や奴

笑い声 いつも絶えない 孫の居て

笑い声 いつも仲間の 真ん中に

笑い声 今なら小遣い 強請らるる

笑い声 俺も仲間に 加ててくれ

笑い声 聞こえる方へ 駈け寄らす

笑い声 健康家族 医者要らず

笑いこけ 座布団二枚 がたあつた

笑いこけ もう腹の皮 保ちきらん

笑いすぎ 横っ腹の 引きつった

笑えない 吾が振りなおし 教訓に

笑えない 若かりし日の 身に覚え 熊日 11/9

笑わば笑え 末は博士か 大臣か

笑わば笑え ボロは着てても 持つちやおる

笑わば笑え 吾がじゃ上手て 思うとる

悪かった 謝れば済む ことじやなか

悪かった 反省します 猿ばしか

悪かねエ 俺の遺伝子 受け継がせ ネット句会2月

悪仕掛け ドンク跳び出す チョーク箱

悪そうだねえ 失敗総て 他人の所為

悪そうだねえ 他人の苦勞 吾が手柄

悪そして 覚えん無かこつ あるもんか

我先に あばつきらんごつ 大食らい

我先に 幸運掴む 福男 (西宮神社)

我先に トイレにダッシュ その早さ

我先に 特売場に なだれ込み

我先に トレイ山盛り バイキング

我先に 流行病を 仕入れとる

腕白が 横道つこする 学校路

己だイヤばい 先に逝くとも 残つとも

己だ知らん 関わり合いに なるごつにや

美味かつた 誉めたところが そればかり

美味かつた 後で喰おうと 腐らする

美味か物 喰わする者にや 下心

美味んまそうに

盃片手

舌鼓したつづみ